

P3F1-0010-02

PRIMERGY ES210

取扱説明書

FUJITSU

ごあいさつ

このたびは、弊社の PRIMERGY (プライマジー)ES210 をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

PRIMERGY ES210 は、優れたネットワーク・パフォーマンスを実現するため、高い処理能力、拡張性、信頼性を備えたサーバです。

本書は、PRIMERGY ES210 (発表月 : 2000 年 5 月) および PRIMERGY ES210 (発表月 : 2000 年 10 月) の取り扱い方法や周辺装置との接続方法など、基本的なことがらを解説しています。

本書をご覧になり、PRIMERGY ES210 を正しくお使いいただきますよう、お願いいたします。

2000 年 10 月

当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

本装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準 (PC-11-1988) に適合しております。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお薦めします。

(社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じことがあります。

高調波ガイドライン適合品

IBM は、米国 International Business Machines Corporation の登録商標です。

VGA、PS/2 は、米国 IBM の米国での登録商標です。

Intel、Pentium および LANDesk は、米国インテル社の登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、MS、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

NetWare および IntranetWare は、米国 Novell, Inc. の登録商標です。

その他の各製品は、各社の商標、登録商標または著作物です。

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

All Rights Reserved, Copyright © 富士通株式会社 2000

本書の読み方

本書は、PRIMERGY ES210 の基本的な取り扱い方法を解説しています。本書で解説していない周辺装置の取り扱い方法については、各周辺装置に添付されている取扱説明書をご覧ください。

本書の構成

章	内容
第1章 本サーバについて	本サーバの特長、本サーバや代表的な周辺装置の役割など、基本的な知識を解説しています。 まず、最初にお読みください。
第2章 設置と接続	本サーバの設置方法と、代表的な周辺装置との接続方法を解説しています。本サーバを設置するときにお読みください。
第3章 基本的な操作	電源の入れかたや、フロッピィディスクのセット方法など、本サーバを使うときの基本的な操作を解説しています。本サーバを初めて使うときにお読みください。
第4章 セットアップ	本サーバの各種セットアップユーティリティの設定方法などを解説しています。システムの拡張時に必要な情報を記載しています。必要に応じてお読みください。
第5章 内蔵オプションの取り付け	内蔵型のオプション製品の本サーバへの取り付けかたを解説しています。内蔵オプションを取り付けるときにお読みください。
第6章 ソフトウェアのインストール	ソフトウェアをインストールする方法を解説しています。ソフトウェアをインストールする場合には、必ずお読みください。
第7章 日常のお手入れ	本サーバのお手入れのしかたを解説しています。 必要に応じてお読みください。
第8章 故障かな？と思ったときは	本サーバにトラブルが発生したとき、どうすればよいのかを解説しています。本サーバが思うように動かなかつたり、画面にメッセージが表示されたりしたときにお読みください。
付録 A	本体仕様などを説明しています。 必要に応じてお読みください。
付録 B	本サーバのハードウェアの情報を記載するシートを記載しています。必ず記入してください。

安全にお使いいただくために

本書には、本サーバを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。

本サーバをお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解された上で本サーバをお使いください。

また、本書は、本サーバの使用中にいつでも参照できるよう大切に保管してください。

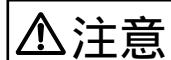
安全上のご注意

本装置およびそのオプション装置を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。



感電

△ で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。



分解

○ で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が示されています。



プラグ

● で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が示されています。

万一、異常が発生したとき



- 万一、装置から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が消えるのを確認して、担当営業員または担当保守員に修理をご依頼ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 異物（水・金属片・液体など）が装置の内部に入った場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、担当営業員または担当保守員にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

本体の取り扱いについて



- 装置を勝手に改造しないでください。火災・感電の原因となります。
- 装置本体のカバーや差し込み口についているカバーは、オプション装置の取り付けなど、必要な場合を除いて取り外さないでください。
内部の点検、修理は担当営業員または担当保守員にご依頼ください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。



- ディスプレイに何も表示できないなど、故障状態で使用しないでください。故障の修理は担当営業員または担当保守員にご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の恐れがあります。
- 開口部（通風孔など）から内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。故障・火災・感電の原因となります。
- 装置の上または近くに「花びん・植木鉢・コップ」などの水が入った容器、金属物を置かないでください。故障・火災・感電の原因となります。
- 殺虫剤などを使って害虫駆除を行う場合には、サーバ本体を停止し、ビニールなどで保護してください。
- 湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に置かないでください。故障・火災・感電の原因となります。



- 本体に水をかけないでください。故障・火災・感電の原因となります。
- 風呂場、シャワー室などの水場で使用しないでください。故障・火災・感電の原因となります。



近くで雷が発生したときは、電源ケーブルやモジュラケーブルをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては装置を破壊し、火災の原因となります。



- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因となります。
- 電源ケーブルや電源プラグが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。



電源プラグの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。そのまま使用すると、火災の原因となります。



アース接続が必要な装置は、電源を入れる前に、必ずアース接続をしてください。アース接続ができない場合は、担当営業員または担当保守員にご相談ください。万一漏電した場合に、火災・感電の原因となります。



取り外したカバー、キャップ、ネジなどは、小さなお子様が誤って飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

△注意



- 装置の開口部（通風孔など）をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
- 装置の上に重いものを置かないでください。また、衝撃を与えないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下したりしてけがの原因となります。
- 振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。
- AC アダプタを使用する装置の場合は、マニュアルに記載されていない AC アダプタは使用しないでください。また、AC アダプタの改造・分解はしないでください。火災・けがの原因となります。
- サービスコンセントがある装置の場合は、マニュアルに記載されていない装置をサービスコンセントに接続しないでください。火災・けがの原因となります。
- フロッピィディスク・IC カードなどの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となります。
- 電源プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり断線したりして、火災・感電の原因となります。
- 携帯電話などを本体に近づけて使用しないでください。装置が正しく動かなくなります。

指 示



- 転倒防止足のある装置は必ず使用してください。振動による転倒けがをするおそれがあります。
- 電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。火災・故障の原因となります。



- 装置を移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源ケーブルなどもはずしてください。作業は足元に十分注意して行ってください。電源ケーブルが傷つき、火災・感電の原因となったり、装置が落ちたり倒れたりしてけがの原因となります。
- 長時間装置を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となります。



- 健康のため、1時間ごとに10～15分の休憩をとり、目おおよび手を休めてください。
- ディスプレイなど、重量のある装置を動かす場合は、必ず2人以上で行ってください。けがの原因となります。
- ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないように注意してください。耳を刺激するような大きな音量を長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与える原因となります。

オプションの取り扱いについて



オプション装置の取り付けや取り外しを行う場合は、装置本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。



- 弊社推奨品以外の装置は接続しないでください。故障・火災・感電の原因となります。
- 本体に取り付けたモデムカードに、二股のモジュラープラグを接続している場合、空いている差し込み口に指などを入れないでください。感電の原因となります。

電池の取り扱いについて



使用している電池を取り外した場合は、小さなお子様が電池を誤って飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



- マニュアルに記載されていない電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。
- 電池はショートしたり、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れたりしないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。
- 乾電池は充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。



電池を取り付ける場合、極性のプラス(+)とマイナス(-)の向きに注意してください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。

温湿度について

△注意



- 本装置は、周囲温度が 10 ~ 35 の環境を守ってご利用ください。
特に 24 時間運転をする場合には空調のスケジュールなどを十分考慮し(夜間や休日など)、周囲温度をはずれた温度のもとで運用されることの無いようにしてください。
温度条件が守られないこと、電子部品の誤動作や故障、寿命の短縮の原因となります。
 - 特に夏場において 24 時間運用を行う場合、必要に応じて夜間・休日にも冷房を入れて、周囲温度が 35 を超えないようにしてください。
 - 冬場など寒中での暖房時は、一時間あたりの温度上昇が 15 を超さないように室温調整を行い、結露を発生させないようにしてください。

		室内温度 (°C)							備考
		10	15	20	25	30	35	40	
相対湿度 (%)	20	- 7	- 5	- 3	1	5	9	13	[見方] 温度 25°C で湿度 60% の場合、装置が 17°C 以下のとき、結露します。
	40	- 3	2	7	11	16	20	24	
	60	3	8	13	17	22	26	31	
	80	7	12	17	22	26	31	-	
	90	9	13	19	24	29	34	-	

腐食性ガスや塵埃について

△注意

腐食性ガスや塩風は、装置を腐食させ誤動作、破損および、装置寿命を著しく短くする原因となりますので、空気清浄装置を設置するなどの対策が必要となります。

また、塵埃が多い場所についても、記憶媒体の破損、装置冷却の妨げなどにより、誤動作や装置寿命を著しく短くする原因となります。

- 腐食性ガスの発生源としては、化学工場地域、温泉 / 火山地帯などがあります。
- 塩害地区の目安としては、海岸線から 500m 以内となります。

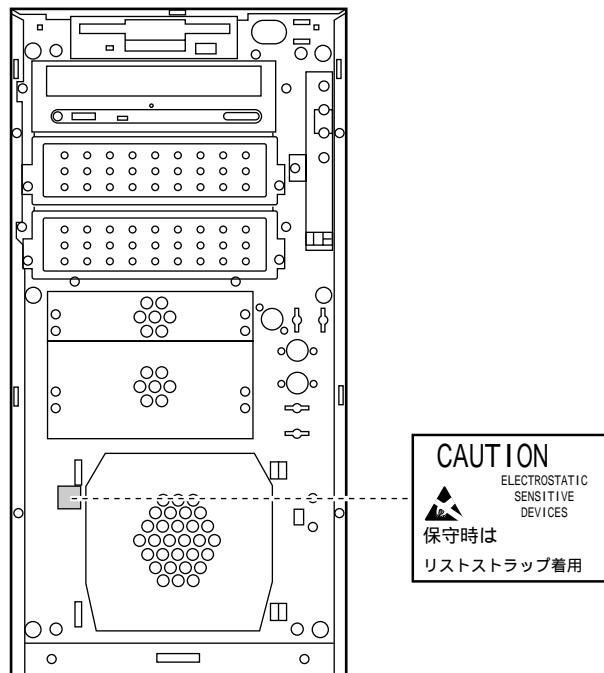
本装置を廃棄するとき

本装置を廃棄する場合には、産業廃棄物として処理する必要があります。廃棄する場合には、必ず担当営業または専門業者にご連絡ください。

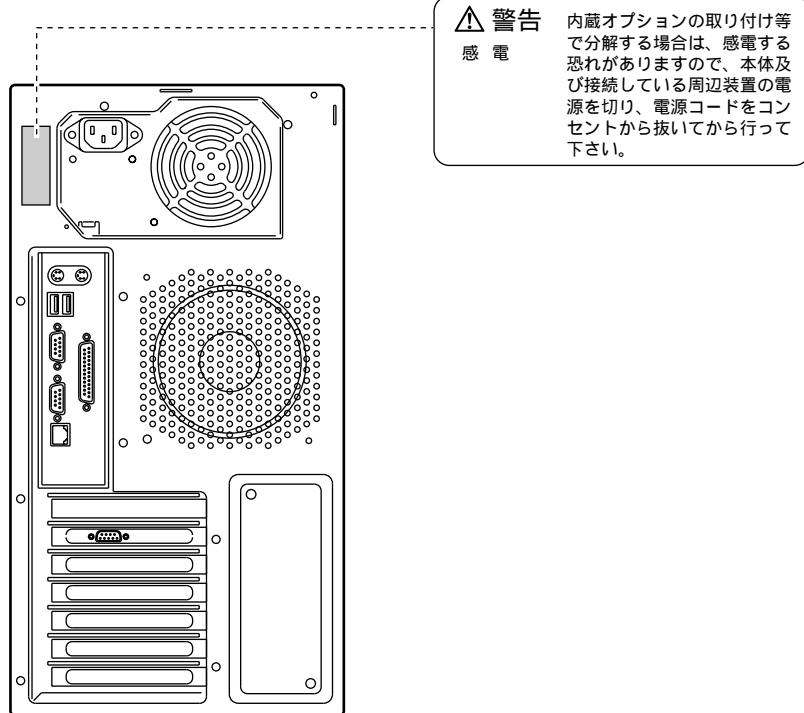
警告ラベル

本製品には、下図のように警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルは、絶対にはがさないでください。

装置前面



装置背面



サーバの保守サービスについて

サーバの保守サポート期間

保守サポート期間は、お客様の購入後 6 年間です。

定期交換部品

お客様の使用環境や使用時間により、サーバの一部の部品で保守サポート期間内に、交換が必要となる定期交換部品があります。

導入時より保守サービス契約を結ばれたお客様においては、交換費用（交換部品代及び、交換作業代）は、当該サービス契約料金にて優先的に交換いたします。

なお、保守サービス契約が未契約のお客様には、別途ご請求させていただきます。

定期交換部品の交換時期

定期交換部品の交換周期は、いずれも適切な使用環境下での運用を前提としています。

動作保証範囲は 10 ~ 35 ℃ですが、交換時期は平均使用温度 25 ℃での運用を想定しており、空調のある常温で使用してください。

定期交換部品

電源ユニット

24 時間 / 日運転では約 3 年間を経過すると交換時期となります。

10 時間以内 / 日運転では保守サポート期間内に交換時期となりません。

ES210 には 1 個あり、交換が必要です。

冷却ファン

24 時間 / 日運転では約 3 年間を経過すると交換時期となります。

10 時間以内 / 日運転では保守サポート期間内に交換時期となりません。

ES210 には 1 個あり、交換が必要です。

プロセッサのファン

24 時間 / 日運転では約 3 年間を経過すると交換時期となります。

10 時間以内 / 日運転では保守サポート期間内に交換時期となりません。

ES210 には最大 2 個あり、すべて交換が必要です。

SCSI アレイコントローラカード (GP5-146) のバッテリ

電源の投入 / 切断時間にかかわらず約 2 年間を経過すると交換時期となります。

高性能無停電電源装置 (Smart-UPS) のバッテリ

電源の投入 / 切断時間にかかわらず約 2 年間を経過すると交換時期となります。

PRIMERGY では、システムの安定稼動を目的に、保守サービス契約を結ばれることを推奨しております。

上記の定期交換部品のこともご勘案いただき、是非とも保守サービス契約を結ばれますようお願い申し上げます。

本書の表記について

キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：[Ctrl] キー、[Enter] キー、[] キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「 + 」でつないで表記しています。

例：[Ctrl] + [F3] キー、[Shift] + [] キーなど

コマンド入力

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: b:
```

の箇所のように文字間隔をあけて表記している部分は、[Space] キー（キーボード手前中央にある何も書かれていらない横長のキー）を 1 回押してください。

また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

本文中の表記

本文中では、以下の表記・記号を使用しています。

サーバ本体または本サーバ

PRIMERGY ES210 のことです。

Windows 2000 Server

Microsoft® Windows® 2000 Server の略です。

Windows NT Server 4.0

Microsoft® WindowsNT® Server 4.0 の略です。

SBS 4.5

Microsoft® Backoffice® Small Business Server 4.5 の略です。

NetWare

Novell® NetWare® の略です。

LDSM

Intel® LANDesk® Server Manager software の略です。



ポイント

ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。



ヘルプ

操作を間違えてしまったときの元の状態への戻しかたや、困ったときの対処方法が書いてあります。



コラム

用語の意味や、豆知識が書いてあります。



本書内の参照ページを示します。

本書では、本サーバをタイプごと区別して、以下の名称を用いて説明しています。

ディスクレスタイル

内蔵ハードディスクユニットを搭載していないタイプ。

Windows 2000 タイプ

Windows 2000 Server インストールタイプ。

特に断りのない限り、「OS インストールタイプ」に含まれます。

NT4.0 タイプ

Windows NT Server 4.0 インストールタイプ。

特に断りのない限り、「OS インストールタイプ」に含まれます。

SBS 4.5 タイプ

SBS 4.5 インストールタイプ。

特に断りのない限り、「OS インストールタイプ」に含まれます。

IDE アレイタイプ

OS インストールタイプおよび IDE の内蔵ハードディスクを搭載しているタイプ。

特に断りのない限り、「OS インストールタイプ」に含まれます。

Linux タイプ

Linux 添付タイプ。

OS インストールタイプ

ディスクレスタイルと区別するときに、OS がインストールされているタイプの総称。

画面例について

本書に記載されている画面は一例です。お使いのサーバに表示される画面やファイル名などが異なる場合があります。ご了承ください。

目 次

第 1 章 本サーバについて	1
1.1 特 長	2
1.2 名称と働き	4
1.2.1 サーバ本体前面	4
1.2.2 サーバ本体背面	5
1.2.3 サーバ本体内部	6
1.2.4 キーボード / マウス	7
1.3 設置から運用まで	8
第 2 章 設置と接続	11
2.1 梱包物の確認	12
2.2 設置	14
2.2.1 設置場所に関する注意	14
2.2.2 設置環境および設置条件	16
2.3 接続方法	18
2.3.1 接続全体図	18
2.3.2 ディスプレイの接続	19
2.3.3 キーボード・マウスの接続	20
2.3.4 LAN ケーブルの接続	21
2.3.5 プリンタの接続	22
2.3.6 電源ケーブルの接続	23
第 3 章 基本的な操作	25
3.1 フロントドアを開ける	26
3.2 電源を入れる	27
3.3 電源を切る	28
3.4 フロッピィディスクのセット / 取り出し	30
3.4.1 取扱い上の注意	30
3.4.2 フロッピィディスクのセットと取り出し	32
3.5 CD-ROM のセット / 取り出し	33
3.5.1 取扱い上の注意	33
3.5.2 CD-ROM のセットと取り出し	35

第 4 章 セットアップ	37
4.1 セットアップの概要	38
4.2 ハードウェアの設定	39
4.3 BIOS セットアップユーティリティを使う	41
4.3.1 BIOS セットアップユーティリティを使うとき	41
4.3.2 BIOS セットアップユーティリティの起動と終了	42
4.3.3 BIOS セットアップユーティリティでのキー操作	44
4.3.4 メニューと項目一覧	45
4.3.5 Main メニュー	49
4.3.6 System Information メニュー	50
4.3.7 Product Information メニュー	53
4.3.8 Disk Drives メニュー	54
4.3.9 Power Management メニュー	57
4.3.10 Startup Configuration メニュー	59
4.3.11 Advanced Configuration メニュー	62
4.3.12 System Security メニュー	80
4.3.13 Date and Time メニュー	84
4.3.14 Load Default Settings メニュー	85
4.3.15 Abort Settings Change メニュー	86
4.4 SCSI コンフィグレーションユーティリティを使う	87
4.4.1 SCSI コンフィグレーションユーティリティの起動と終了	87
4.4.2 メニューと項目一覧	90
4.4.3 Main メニューの詳細	93
4.4.4 Utility メニューの詳細	95
4.5 BIOS 設定情報の退避 / 復元	102
第 5 章 内蔵オプションの取り付け	107
5.1 内蔵オプションの種類	108
5.2 フロントカバー・シャーシカバーの取り外し	110
5.2.1 フロントカバーの取り外し	111
5.2.2 シャーシカバーの取り外し	113
5.3 拡張 RAM モジュールの取り付け / 取り外し	115
5.4 CPU の取り付け	117
5.5 内蔵オプションベイへの取り付け	119
5.5.1 全体図	119
5.5.2 ストレージベイへの取り付け	120
5.5.3 内蔵ハードディスクユニットの取り付け	122
5.5.4 インチストレージベイへの内蔵オプションの取り付け / 取り外し	133
5.6 拡張カードの取り付け	140
5.6.1 拡張カードの種類	140
5.6.2 拡張カード共通の留意事項	144
5.6.3 取り付けの手順と注意	145

5.6.4 SCSI カード / SCSI アレイコントローラカード / IDE アレイコントローラカードの留意事項	147
5.6.5 LAN カード / オンボード LAN の留意事項	160
5.6.6 RS-232C カード	163
5.6.7 ISDN カード	163
5.6.8 通信カード V/X	164
5.6.9 ISDN 接続 G3/G4FAX 通信カード	164
5.6.10 FAX モデムカード	165
5.6.11 サーバモニタモジュール	166
5.6.12 サーバマネージメントアシストボード	169
第 6 章 ソフトウェアのインストール	171
6.1 OS の種類と使用するドライバ	172
6.1.1 インストールできる OS と参照箇所	172
6.1.2 使用するドライバと作成方法	174
6.2 SCSI アレイコントローラカード使用時の注意	178
6.3 Windows 2000 Server のインストール	180
6.3.1 インストールの前に	180
6.3.2 インストールに必要なソフトウェア	181
6.3.3 Windows 2000 Server のインストール	182
6.4 Windows NT Server 4.0 および SBS 4.5 のインストール	187
6.4.1 インストールの前に	187
6.4.2 インストールに必要なソフトウェア	189
6.4.3 Windows NT Server 4.0 のインストール	190
6.4.4 SBS 4.5 のインストール	200
6.4.5 SCSI オプション装置の搭載時の注意事項	209
6.4.6 内蔵ハードディスクユニット (IDE) の UltraDMA/33 モードへの 変更について	211
6.5 NetWare のインストール	212
6.5.1 インストールの前に	212
6.5.2 インストールに必要なソフトウェア	212
6.5.3 インストールの流れ	212
6.5.4 NetWare 5.1 のインストール	213
6.5.5 NetWare 5.1 のインストール (SCSI アレイコントローラカード使 用時)	216
6.5.6 SCSI ドライバ関連エラーメッセージ	218
6.6 LAN ドライバについて	220
6.6.1 LAN ドライバのインストール方法 (Windows 2000 Server)	220
6.6.2 Windows NT Server 4.0 対応 LAN ドライバ	221
6.6.3 LAN ドライバの注意事項	223
6.6.4 その他の注意事項	226
6.7 Servervisor / Intel® LANDesk ® Server Manager について	227
6.8 Tape Maintenance Checker V2.3 の導入時の注意について	229
6.9 その他のソフトウェアについて	231

第 7 章 日常のお手入れ	233
7.1 お手入れ	234
7.1.1 サーバ本体のお手入れ	234
7.1.2 キーボードのお手入れ	234
7.1.3 マウスのお手入れ	235
7.1.4 フロッピィディスクドライブのクリーニング	236
7.1.5 内蔵 DAT ユニットのお手入れ	237
7.1.6 内蔵光磁気ディスクユニットのお手入れ	239
7.2 バックアップ	240
7.2.1 バックアップの必要性	240
7.2.2 バックアップ装置とソフトウェア、およびその運用	240
第 8 章 故障かな？と思ったときには	243
8.1 トラブルシューティング	244
8.2 エラーメッセージ	247
8.2.1 POST エラーメッセージ	247
8.3 イベントログ	251
8.3.1 イベントログを採取するための設定	251
8.3.2 イベントログの参照	252
8.3.3 イベントログ採取プログラム (Event Log Viewer) の使用方法 ..	
252	
8.4 保守員に連絡するときは	256
付録 A	257
A.1 本体仕様	258
A.1.1 本体仕様	258
A.1.2 内蔵ハードディスクユニットの仕様	263
A.2 24 時間運用上の留意点	265
A.3 LAN 経由の電源投入 / 切断時の留意点	266
A.4 CPU 増設時の OS の変更手順	270
A.5 メモリダンプの取得	276
A.5.1 メモリダンプを取得するための設定方法 (Windows 2000 Server の場合)	276
A.5.2 メモリダンプを取得するための設定方法 (Windows NT Server 4.0 の場合)	280
A.5.3 メモリダンプが取得できないとき	284
A.5.4 カスタムメイドにおけるブレインストールタイプについて	285
付録 B	287
B.1 コンフィグレーションシート	288
B.1.1 ハードウェア構成	288
B.1.2 BIOS セットアップ項目	290

B.1.3 SCSI Configuration ユーティリティ	297
B.1.4 システム資源管理表	299
B.1.5 RAID (SCSI) 設計シート	301
B.2 障害連絡シート	303

第1章 本サーバについて

この章は、本サーバの特長、代表的な周辺装置、装置の各部の名称と働きなど、基本的な知識を解説しています。

CONTENTS

1.1 特 長	2
1.2 名称と働き	4
1.3 設置から運用まで	8

1.1 特 長

本サーバには、以下のような特長があります。

高速な処理

本サーバでは、データを高速に処理できる Pentium® III プロセッサを 1 個搭載しており、最大 2 個まで搭載できます。システムは 64 ビット幅のメモリバスをもっていますので、64 ビット幅の外部データバスをもつプロセッサの性能を最大限に引き出すことができます。

本サーバには最大データ転送速度 133MB / 秒を誇る PCI バスを搭載しています。

また、オンボード SCSI は Ultra Wide SCSI にすることができます。

これにより、ネットワークサーバとしてのパフォーマンスを飛躍的に向上させることができます。

余裕の拡張性

コンパクトなデザインにもかかわらず、大容量かつ拡張性に富んだシステムを構成することができます。

- メモリは、最大 1GB まで拡張することができます。
- 本サーバは、最大 4 個のハードディスクユニットを搭載することができます。
- ディスクサブシステムにハードディスクキャビネットを増設することで、システムの大規模化にも対応が可能です。
- 本サーバでは内蔵 CD-ROM ドライブユニットを 1 台標準搭載しています。また、以下の内蔵 5 インチオプションを使用できます。
 - 内蔵 DAT ユニット
 - 内蔵光磁気ディスクユニット
- 拡張スロットは、PCI スロットを 3 スロット用意しています。

高信頼性の実現

- 特定の人だけが本サーバを使用できるようにパスワードを設定することができます。
- SCSI アレイコントローラカードを使用し、ディスクアレイシステム (RAID0/1/5/6) を構成することができます。
- Wake on LAN 機能により、クライアントから LAN 経由でサーバ本体の電源を投入 / 切断することができます。
- サーバモニタモジュールはサーバ本体内とは独立して動作しているため、万一サーバ本体内の CPU が故障したりシステム電源が切断されても、サーバモニタモジュールはサーバを監視しつづけることができます。

簡単なセットアップ

本サーバには、Windows 2000 Server、Windows NT Server 4.0、および SBS 4.5 を簡単にセットアップできる、Windows サーバ導入支援プログラム「ServerWizard」が添付されています。

サポート OS

本サーバでは以下の OS をサポートします。

- Windows 2000 Server
- Windows NT Server 4.0
- SBS 4.5
- NetWare 5.1 (NetWare 5 を含む)

特に断りのない限り、NetWare 5.1 と表記している部分は、NetWare 5.1 を含みます。

- Linux

なお、本サーバでご使用になれる Linux OS に関しては、下記 URL でご確認ください。

(URL を参照できない場合は、担当営業へお問い合わせください)

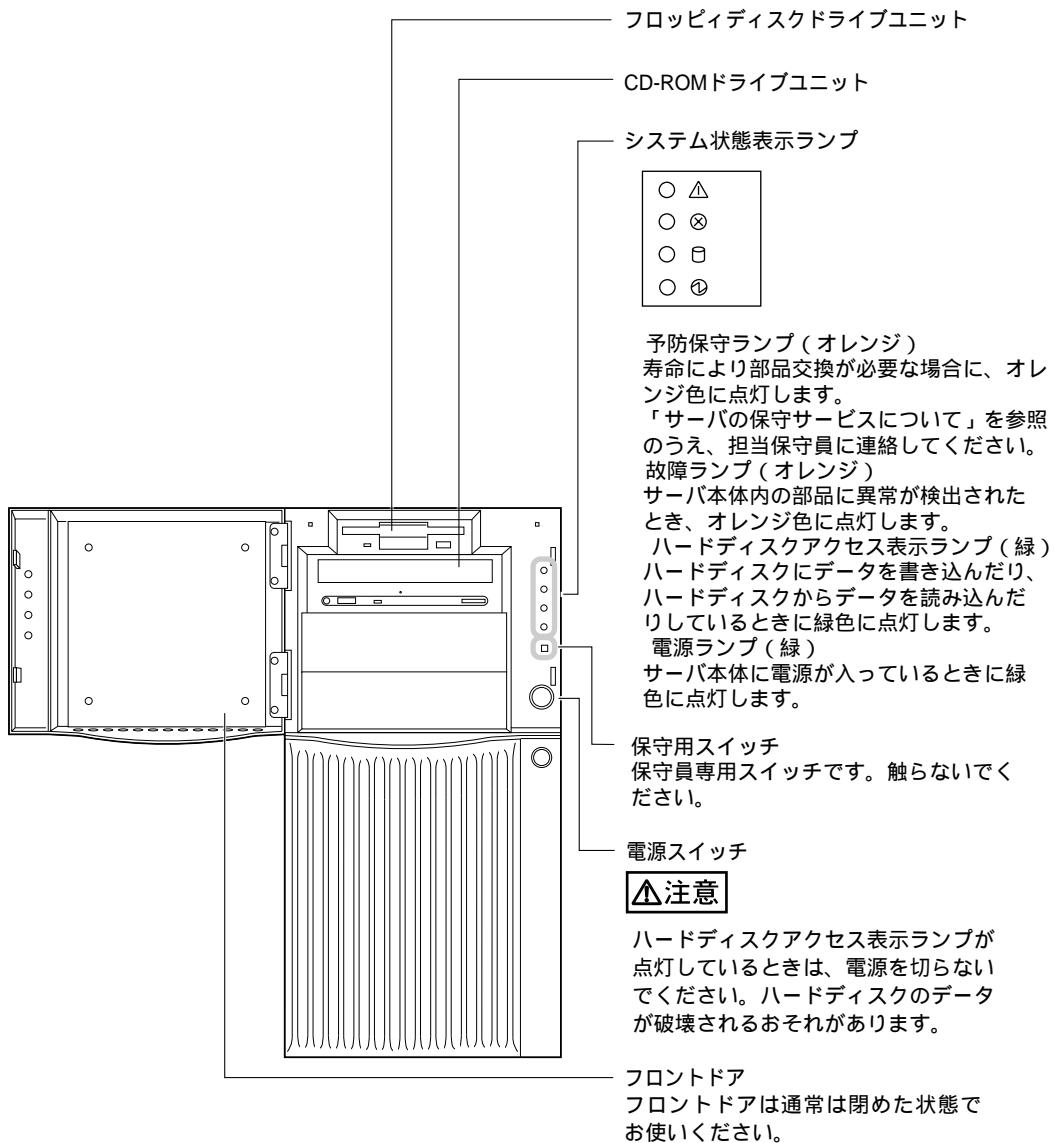
[弊社ホームページ URL]

- PRIMESERVER / GRANPOWER WORLD Linux 情報ページ
<http://www.fujitsu.co.jp/hypertext/granpower/linux/index.html>

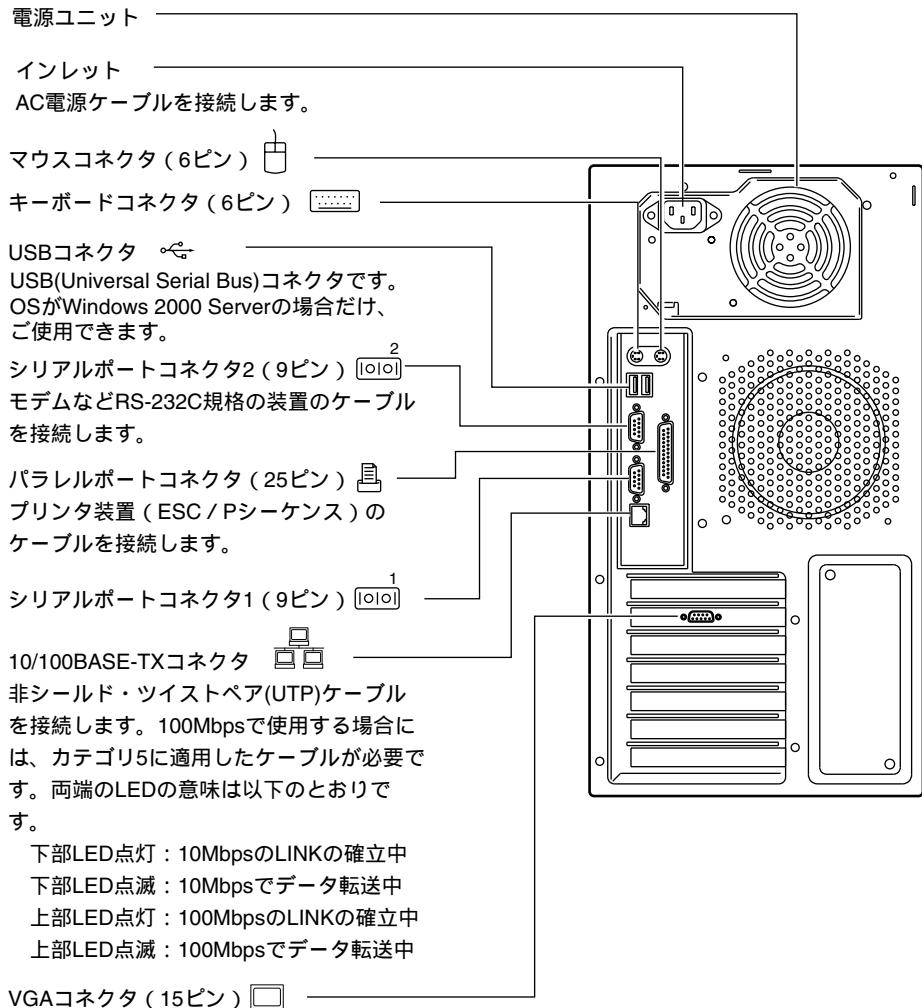
1.2 名称と働き

ここでは、サーバ本体、キーボード、マウスの各部の名称と働きを解説します。

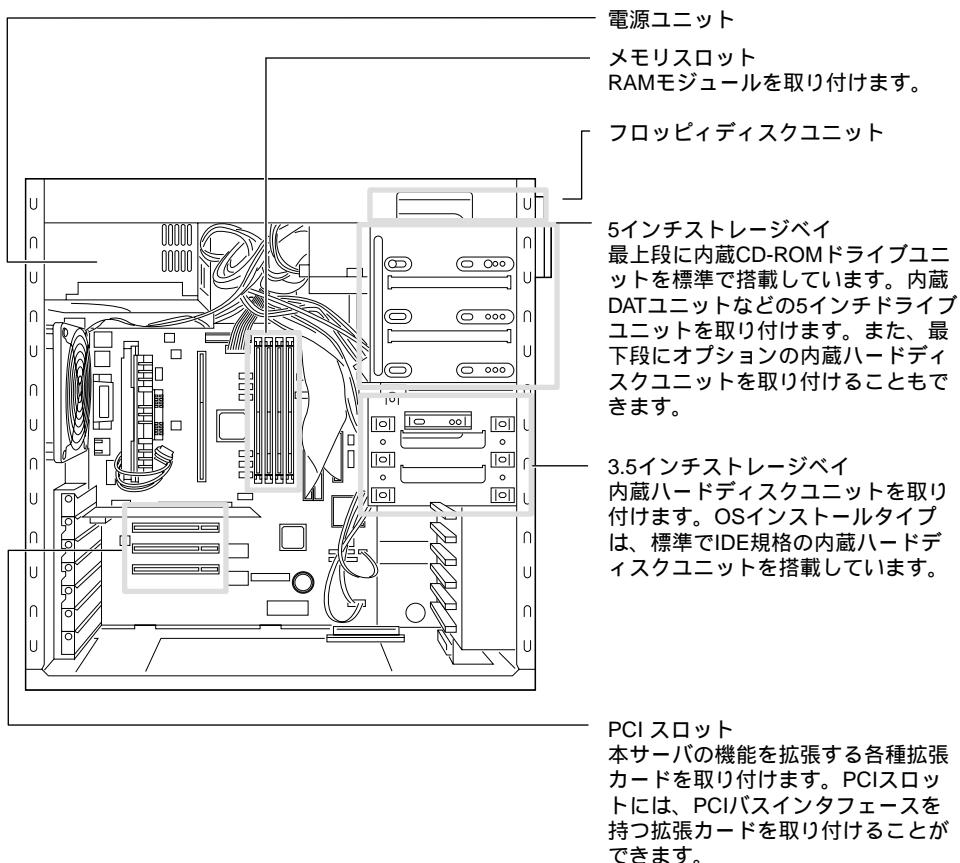
1.2.1 サーバ本体前面



1.2.2 サーバ本体背面



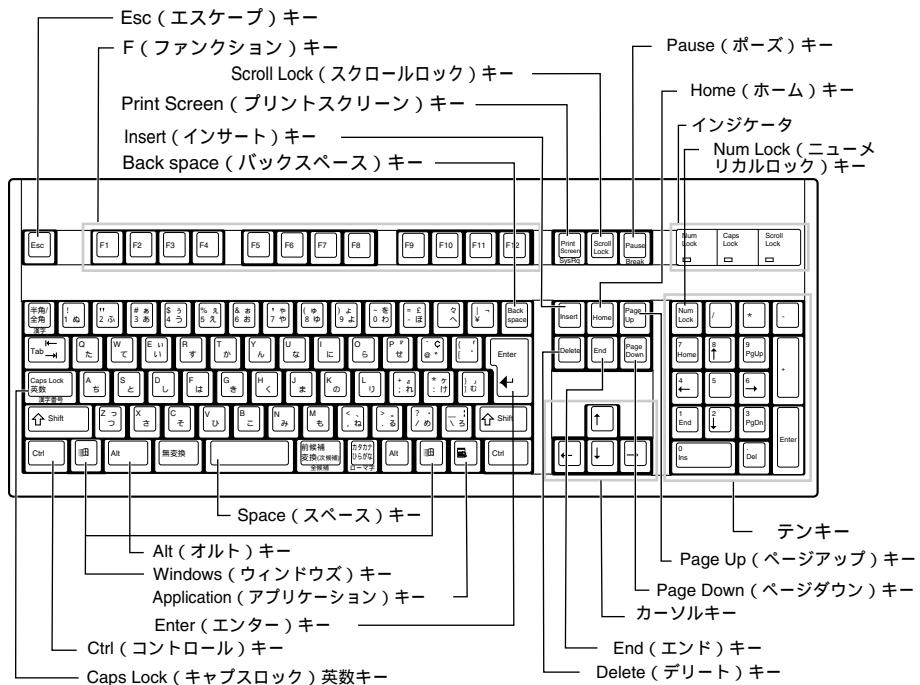
1.2.3 サーバ本体内部



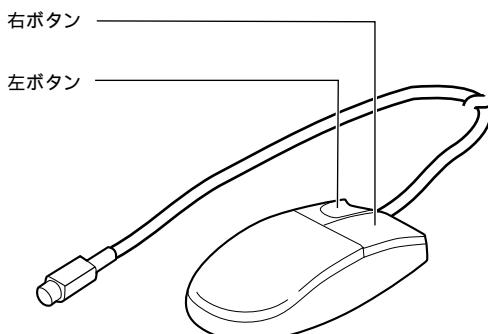
1.2.4 キーボード / マウス

キーボード

本サーバには、OADG仕様に準拠したキーボードが添付されています。各種機能キーはアプリケーションによって機能が異なります。



マウス



1.3 設置から運用まで

本サーバの設置から運用までの流れを示します。

以降の流れ図に従って、設置から運用までの作業を行ってください。

なお、カスタムメイドサービスで製品をご購入された場合は、「PRIMERGY ES210 カスタムメイドサービス 実装・設定情報」を参照してください。

また、Linux OS をインストールされる場合は、サーバ本体に同梱される Linux の関連マニュアルを参照してください。

- 1 **梱包物 / 添付品を確認する**
…▶ 「第2章 設置と接続」の「2.1 梱包物の確認」
- 2 **設置場所を確認し設置する**
…▶ 「安全上のご注意」、「第2章 設置と接続」
- 3 **準備する**
事前に以下のものを用意してください。
 - ・ServerWizardのCD-ROM (以降ServerWizard CDと記述します)
 - ・工具 (プラスドライバー)
 - ・ドライバーズCD

重要 本サーバに添付の以下のマニュアルを必ず準備してください。
『Windows NTをインストールしよう!』、
『PRIMERGY ソフトウェアガイド』
- 4 **内蔵オプションを取り付ける**

重要 ServerWizardを使ってセットアップするときは、事前に取り付けられる内蔵オプションは決まっています。事前に取り付けることができない内蔵オプションは、ServerWizardを終了してから、取り付けてください。
…▶ 『PRIMERGY ソフトウェアガイド』の「第1部 第1章 ServerWizard V2.0の概要」

注意 内蔵オプションを取り付けるときは、取り付ける位置や順序、他のオプションとの同時搭載時の注意があります。参照箇所を熟読のうえ、以降の手順を実施してください。
…▶ 「第5章 内蔵オプションの取り付け」、
『各オプション装置の取扱説明書』
- 5 **周辺機器を取り付ける**
ディスプレイ装置、キーボード、マウスを本体装置に接続します。その他の周辺機器を取り付けます。
…▶ 「第2章 設置と接続」の「2.3 接続方法」
- 6 **各機器の取り付けを確認する**
設置した装置にぐらつきがないこと、ケーブルが確実に接続されていることを確認します。
- 7 **電源の投入 / ServerWizard CDのセット**
電源投入後すぐに、ServerWizard CD (またはドライバーズCD) をセットします。
取り付けたメモリ総容量と同じ容量がディスプレイに表示されること、およびシステムが正常に起動することを確認します。

注意 必ずServerWizard CD (またはドライバーズCD) をセットしてください。
…▶ 「3.2 電源を入れる」
- 8 **BIOSセットアップユーティリティを設定 / 確認する**

注意 取り付けたオプション装置によって、BIOSセットアップユーティリティの設定値を、確認または変更する必要があります。
…▶ 「4.3 BIOSセットアップユーティリティを使う」
『各オプション装置の取扱説明書』

- 9 **SCSIコンフィグレーションユーティリティを設定 / 確認する**
- 注意** 使用する内蔵ハードディスクによってSCSIカードの設定を、確認または変更する必要があります。
→ 「4.4 SCSIコンフィグレーションユーティリティを使う」
- 10 **ServerWizardを実行する**
- ServerWizardは、以下の作業を簡単に行うことができるWindowsサーバ導入支援プログラムです。
- ・メンテナンス区画の作成
 - ・OSのインストール
 - ・必須ソフトウェアのインストール
 - ・ドライバ類のインストール
- ここでは、ServerWizardを使って作業する場合と使わない場合に分けて説明します。
- 以下の表に従って、ServerWizardを使用するかどうかを選択してください。
- | ソフトウェアのインストール | 参照箇所 |
|-------------------------------|---|
| 設置からソフトウェアのインストールまで
連続して行う | 「ServerWizardを使用する場合」
「ServerWizardを使用しない場合」 |
| ソフトウェアのインストールは別途行う | 「ServerWizardを使用しない場合」 |
- 重要** アレイシステム構築時は、構築するシステム構成によって、ServerWizardを使用できない場合があります。
アレイシステムを構築する場合には、事前に「PRIMERGY ソフトウェアガイド」を参照して、ServerWizardが使用できるシステム構成であるかどうかを確認してください。
- ↓
- ServerWizardを使用する場合**
- ServerWizardを実行します。
- 「Windows NTをインストールしよう！」
「PRIMERGY ソフトウェアガイド」
「6.7 Servervisor / Intel® LANDesk® Server Managerについて」および「Servervisor / LDSMのオンラインマニュアル」
- ServerWizardを使用しない場合**
- 以下の作業を手作業で行ってください。
- 1 ドライバディスクの準備**
ServerWizard CDから必要なドライバディスクを作成します。
→ 「6.1 OSの種類と使用するドライバ」
 - 2 メンテナンス区画の作成**
→ 「PRIMERGY ソフトウェアガイド」
 - 3 OSのインストール**
→ 「第6章 ソフトウェアのインストール」
 - 4 Servervisor / LDSMのインストール**
必須
→ 「6.7 Servervisor / Intel® LANDesk® Server Managerについて」および
「Servervisor / LDSMのオンラインマニュアル」
- ↓
- 11 **UPS (無停電電源装置) の取り付け**
- 条件** UPSを接続する場合
→ 「UPSの取扱説明書」
- 12 **システム設定情報を退避する**
- 「BIOS Environment Support Tools」を用いて、システムの設定情報を退避するとともに、コンフィグレーションシートに装置の運用状態を記入するようにしてください。
システムに異常が発生したときやオプションの増設時に参考になります。
→ 「4.5 BIOS設定情報の退避 / 復元」、
「付B.1 コンフィグレーションシート」
- ↓
- 13 **運用開始**

第2章 設置と接続

この章は、本サーバの設置場所および本サーバと周辺装置との接続方法を解説しています。

CONTENTS

2.1 梱包物の確認	12
2.2 設置	14
2.3 接続方法	18

2.1 梱包物の確認

箱の中に次の品物がそろっているか確認してください。万一、欠品などがございましたら、担当営業員までお申しつけください。

添付品はシステムの変更時やソフトウェアの再インストール時に必要となるため、大切に保管してください。

タイプ	名称	備考
共通	本体装置	
	キーボード	
	マウス	
	電源ケーブル（本体装置用）	
	アダプタプラグ	電源コネクタ 2 ピン -3 ピン変換用
	取扱説明書	本書
	ハードウェアセットアップガイド	1 部
	BIOS Environment Support Tools	フロッピィディスク 1 枚
	ハードディスクアクセスランプ点灯ケーブル	1 本
	Wide SCSI ケーブル (GP5-843) 用ダストキャップ	3 個、 GP5-843 を使用した際に余ったコネクタに装着します
	Narrow SCSI ケーブル	1 本
	5 インチ内蔵オプション用ミリネジ	8 個
	リストストラップ	1 個、 作業前に必要です
	ラベル	5 枚一組 × 2 (ケーブル接続先メモ用)
	保証書	1 部
ディスクレスタイプ、 Windows 2000 タイプ	ServerWizard CD	一式 - CD-ROM1 枚 - フロッピィディスク 1 枚 - PRIMERGY ソフトウェアガイド
NT 4.0 タイプ、 SBS 4.5 タイプ、 IDE アレイタイプ	Windows NT をインストールしよう！	1 部
	REMCS エージェント	一式 - CD-ROM1 枚 - 運用ガイド
	LDSM update Disk	1 枚、 LDSM をインストールする際に使用します

タイプ	名称	備考
Windows 2000 タイプ、 Windows 2000 IDE アレイタイプ	Windows 2000 Server	一式
	PRIMERGY Windows 2000 設定の手引き	1 部
NT 4.0 タイプ、 IDE アレイタイプ	Windows NT Server 4.0	一式
ディスクレスタイプ、 IDE アレイタイプ、 Linux タイプ	IDE ケーブル	1 本
		2 本 (IDE アレイタイプは本体実装済み)
SBS 4.5 タイプ	SBS 4.5	一式
	FAX モデムカード	本体実装済み
	モジュラーケーブル	1 本
	FAX モデムカード取扱説明書 (追加説明書を含む)	
IDE アレイタイプ	IDE アレイコントローラカード	1 枚 (本体実装済み)
	IDE アレイコントローラカード取扱説明書	1 部
	ドライバフロッピィディスク	1 枚
	ユーティリティフロッピィディスク	1 枚
Linux タイプ	Linux	一式
	ドライバーズ CD-ROM	1 枚

なお、カスタムメイドサービスを利用してご購入された場合は、上記以外の品物が添付されている場合（または実装されている場合）があります。

また、上記の品物が添付されない場合があります。

その他、添付されているドキュメントがある場合は、サーバ設置前に必ずお読みください。

2.2 設置

ここでは、本サーバの設置について説明します。
なお、本サーバの設置は、担当保守員が行います。

2.2.1 設置場所に関する注意

本サーバを設置するときは、以下の場所は避けてください。



湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に設置しないでください。
故障・火災・感電の原因となります。



- 本体に水をかけないでください。
故障・火災・感電の原因となります。
- 風呂場、シャワー室などの水場で使用しないでください。
故障・火災・感電の原因となります。

△注意



禁 止

- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、高温になる場所には設置しないでください。また、10℃未満の低温になる場所には、設置しないでください。故障の原因となります。
- 塩害地域では使用しないでください。故障の原因となります。
- 電源ケーブルおよび各種ケーブル類に足がひっかかる場所には設置しないでください。故障の原因となります。
- テレビやスピーカの近くなど、強い磁界が発生する場所には設置しないでください。
故障の原因となります。
- 空気の吸排気口である装置前面部、背面部および左右両面部をふさがないでください。
- 装置の背面部および左右両面部は壁から 20cm 離して設置してください。
これらをふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
- 本体装置は、水平で安定した場所、および大きな振動の発生しない場所に設置してください。
振動の激しい場所や傾いた場所などの不安定な場所は、落ちたり倒れたりしてけがの原因になりますので、設置しないでください。
また、通路の近くには、危険防止のため設置しないでください。通路の近くに設置すると、人の歩行などで発生する振動によって本体が故障したり誤動作する場合があります。
- 本サーバの上に重いものを置かないでください。また、本サーバの上に物を落としたり、衝撃を与えないでください。
バランスが崩れて倒れたり、落下したりしてけがの原因となります。また、本サーバが故障したり誤動作する場合があります。
- 本サーバを移動する場合は、必ず電源を切断し、ケーブル類 / マウス / キーボード / AC ケーブルを外してください。
オプションの搭載によって、最大 21Kg 以上の質量となりますので充分注意して運搬してください。
- 転倒防止足のある装置は必ず使用してください。振動による転倒だけがをするおそれがあります。

2.2.2 設置環境および設置条件

ここでは、設置環境および設置条件について説明します。

△注意

- 本装置は、周囲温度が 10 ~ 35 の環境を守ってご利用ください。
特に 24 時間運転をする場合には空調のスケジュールなどを十分考慮し(夜間や休日など)、周囲温度をはずれた温度のもとで運用されることの無いようにしてください。
温度条件が守られない場合、電子部品の誤動作や故障、寿命の短縮の原因となります。
- 特に夏場において 24 時間運用を行う場合、必要に応じて夜間・休日にも冷房を入れて、周囲温度が 35 を超えないようにしてください。
- 冬場など寒中での暖房時は、一時間あたりの温度上昇が 15 を超さないように室温調整を行い、結露を発生させないようにしてください。

設置環境

本サーバは、以下の環境条件を守った上で運用してください。環境条件を外れた設置環境での運用は、本サーバの故障や寿命を著しく短縮する原因となります。

温度 (10 ~ 35)

直射日光の当たる場所、温度条件の厳しい場所を避けて設置してください。また、急激な温度変動は装置を構成する部品に悪影響を与え、故障の原因となるため、温度勾配は 10 / 時間以内が理想です。また、15 / 時間を超えるような環境は避けてください。

湿度 (20 ~ 80%)

高湿度環境に設置すると、腐食性有害物質および塵埃との相乗作用による故障の原因となります。また、磁気媒体・帳票類へも悪影響を及ぼしますので、空調機などにより調整してください。

塵埃 (オフィス環境 : 0.15mg / m³ 以下)

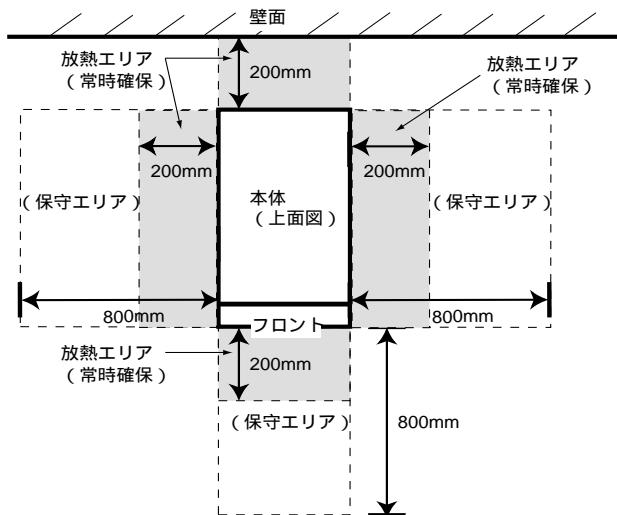
塵埃(ほこり、ちりなど)は磁気媒体やヘッドを傷つけたり、接触不良を起こす原因となります。また、腐食性有害物質および湿気との相乗作用により装置に悪影響を与えるため、空調機を装備したエアフィルタで塵埃を除去するなどの対策が必要です。特に、フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブユニット、光磁気ディスクユニット、DAT ユニットなどの磁気テープ装置を使用する場合、ヘッドや媒体に付着した塵埃がリードエラー・ライトエラーの原因となるため、定期的なクリーニングを行ってください。クリーニングの詳細は、「第 7 章 日常のお手入れ」(233 ページ)を参照してください。

サーバ本体環境条件

項目		設置条件
温度	動作時	10 ~ 35
	休止時	-5 ~ 55
湿度	動作時	20 ~ 80%RH (結露しないこと)
	休止時	
温度勾配	動作時	15 /hr 以下 (結露しないこと)
	休止時	
AC 入力条件	電圧	AC100 ~ 120V
	周波数	50/60Hz
浮遊塵埃		0.15mg/m ³ 以下

設置スペース

本サーバを設置するときは、以下のスペースを確保してください。



2.3 接続方法

2.3.1 接続全体図

以下は、背面から見た接続全体図です。各周辺装置の接続方法は、各項をご覧ください。

電源ケーブル

…▶ 「2.3.6 電源ケーブルの接続」

マウス

…▶ 「2.3.3 キーボード・マウスの接続」



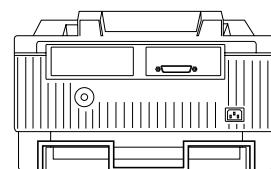
キーボード

…▶ 「2.3.3 キーボード・マウスの接続」



プリンタ

…▶ 「2.3.5 プリンタの接続」

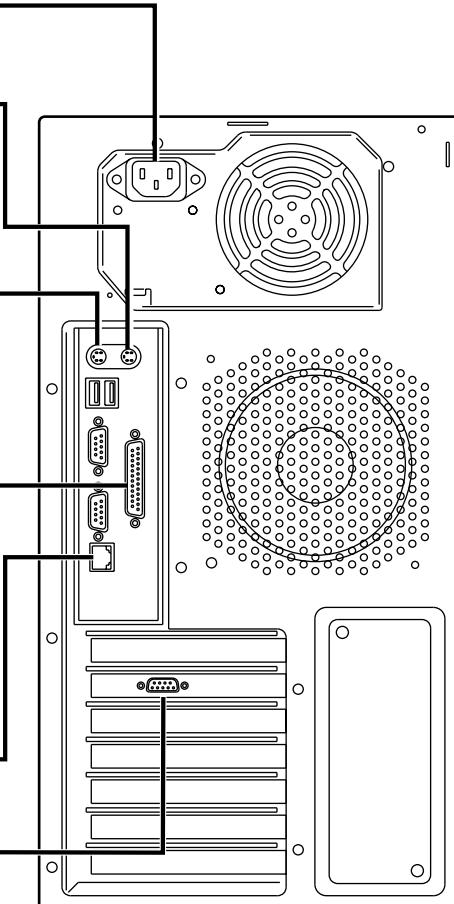
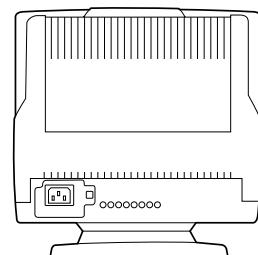


LANケーブル

…▶ 「2.3.4 LANケーブルの接続」

ディスプレイ

…▶ 「2.3.2 ディスプレイの接続」



2.3.2 ディスプレイの接続

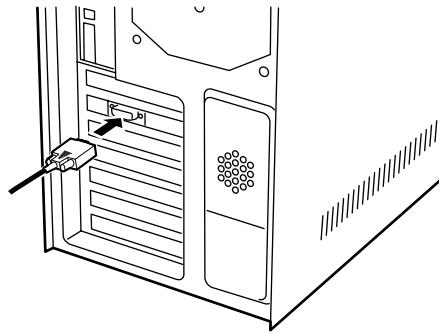


- 接続するときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。感電の原因となります。
- 電源プラグをコンセントに接続する前に、必ずアースを接続してください。また、アース接続を外すときには、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。感電の原因となります。

ディスプレイの接続方法は、以下のとおりです。

1 ディスプレイケーブルをサーバ本体に接続します。

ディスプレイケーブルのコネクタを、サーバ本体の VGA コネクタに接続します。ディスプレイケーブルのコネクタのネジをしめます。



2 ディスプレイケーブルをディスプレイに接続します。

ディスプレイ側への接続は、ディスプレイに添付の取扱説明書を参照してください。

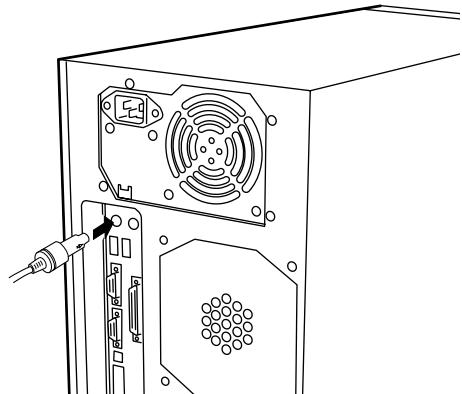
2.3.3 キーボード・マウスの接続



接続するときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。
感電の原因となります。

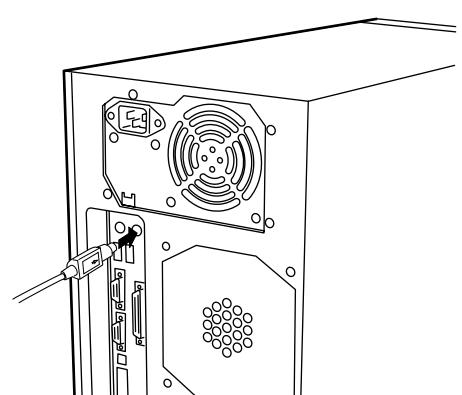
キーボードの接続

- 1 キーボードケーブルのコネクタを、サーバ本体背面のキーボードコネクタ ( : 紫色) に接続します。
このとき、コネクタに刻印されている矢印が右側に向くようにします。



マウスの接続

- 1 マウスケーブルのコネクタを、サーバ本体背面のマウスコネクタ ( : 緑色) に接続します。
このとき、コネクタに刻印されている矢印が右側に向くようにします。

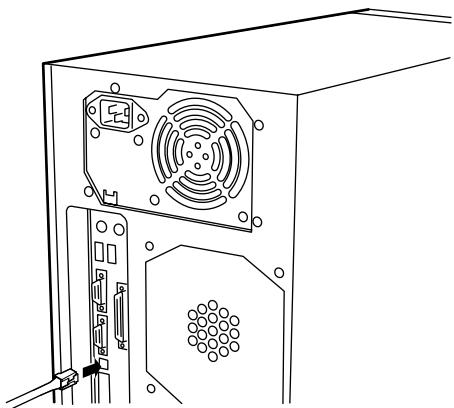


2.3.4 LAN ケーブルの接続

本サーバの LAN ケーブルを接続します。

1 LAN ケーブルをサーバ本体に接続します。

LAN ケーブルのコネクタを、サー
バ本体背面の 10/100BASE-TX コネ
クタに接続します。



2 LAN ケーブルをハブやルータなどに接続します。

もう片方のコネクタを、ハブやルータなどに接続します。

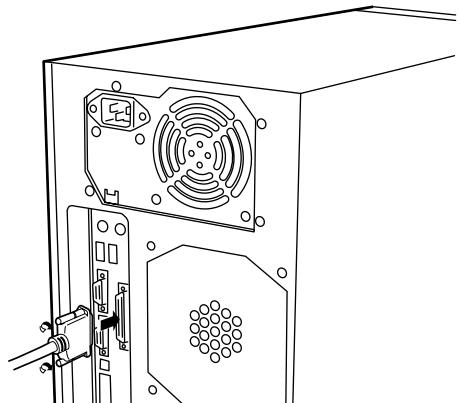
2.3.5 プリンタの接続



接続するときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから取り外してください。
感電の原因となります。

1 プリンタケーブルをサーバ本体に接続します。

プリンタのコネクタを、サーバ本体背面のパラレルポートコネクタに接続します。コネクタのネジをしめます。



2 プリンタ側のケーブルを接続します。

プリンタへのケーブル接続は、各プリンタに添付の取扱説明書を参照してください。

2.3.6 電源ケーブルの接続

周辺装置の接続を終えたら、本サーバの電源ケーブルを接続します。



- 濡れた手でプラグを抜き差ししないでください。
感電の原因になります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。
重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると、電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因になります。
- 電源ケーブルやプラグが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは、使用しないでください。
そのまま使用すると、火災の原因になります。

指示



- プラグの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。
そのまま使用すると、火災の原因になります。
- 電源ケーブルは、家庭用電源（AC100V）に接続してください。
また、タコ足配線をしないでください。
故障・火災の原因となります。

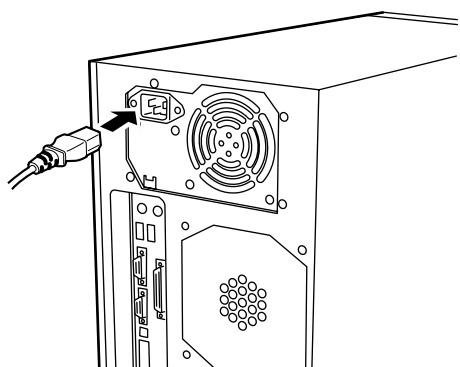
感電



- 電源プラグをコンセントに接続する前に、必ずアースを接続してください。また、アース接続をはずすときには、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。
感電の原因となります。

1 電源ケーブルをサーバ本体に接続します。

電源ケーブルのプラグを、本サー
バのインレットに接続します。



2 電源ケーブルをコンセントに接続します。

もう片方のプラグを、コンセントに接続します。

コンセントが2ピンの場合は、添付のアダプタプラグを取り付け、アダプタブ
ラグに付いているアース線をコンセントのFGネジに接続します。

その後、コンセントに接続します。



警告



- 近くで雷が起きたときは、電源ケーブルをコンセントから
抜いてください。
そのまま使用すると、雷によっては本サーバを破壊し、火
災の原因となります。



注意



- プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ずプラ
グを持って抜いてください。
電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出し
たり断線したりして、火災・感電の原因となります。
- プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。
火災・故障の原因となることがあります。
- 長時間使用しないときは、安全のために必ずプラグをコン
セントから抜いてください。火災・故障の原因となること
があります。

第3章 基本的な操作

この章は、電源の入れ方や切り方、フロッピィディスクのセット方法や取り出し方法など、本サーバを使用する上での基本的な操作を解説しています。

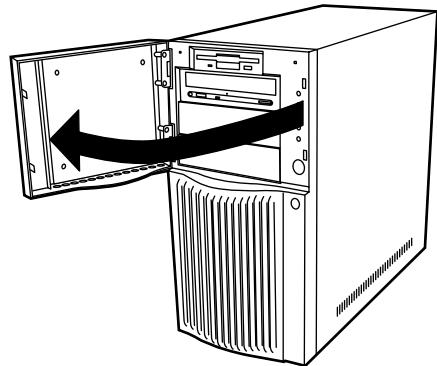
CONTENTS

3.1 フロントドアを開ける	26
3.2 電源を入れる	27
3.3 電源を切る	28
3.4 フロッピィディスクのセット / 取り出し	30
3.5 CD-ROM のセット / 取り出し	33

3.1 フロントドアを開ける

フロントドアを開ける方法は、以下のとあります。

- 1 フロントドアの右側に手をかけ、手前に引きます。



ポイント

通常の使用時（媒体の出し入れ、電源の ON/OFF 以外）には、フロントドアを閉めた状態でご使用ください。携帯電話などの外部からの電波を防ぎます。

3.2 電源を入れる

△注意

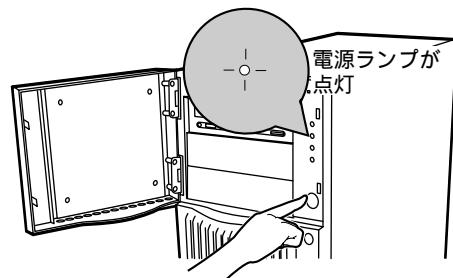


電源を入れたまま、持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。サーバ内部のハードディスクを損傷し、データを消失する原因となります。

- 1 フロントドアを開けます。
- 2 フロッピィディスクドライブおよび CD-ROM ドライブなどに媒体が挿入されていないことを確認します。
- 3 ディスプレイや周辺装置の電源スイッチを押します。
- 4 サーバ本体前面の電源スイッチを押します。

サーバ本体の電源ランプが点灯します。

電源が入ると、本サーバはサーバ本体の装置をチェックする「POST (Power On Self Test: パワー・オンセルフ・テスト)」を行います。POST の結果、異常があればエラーメッセージが表示されます。(「第 8 章 故障かな? と思ったときには」(243 ページ) の「8.2 エラーメッセージ」(247 ページ) を参照)



また、メンテナンス区画からサーバを起動する旨のメッセージ
「Press F10 to start tools of Maintenance Partition.」が表示されます。

△注意

- 電源切断後、10 秒間は、電源スイッチを押しても電源は入りません。故障ランプが点滅します。再投入するときは 10 秒以上待ってから電源スイッチを押してください。

3.3 電源を切る

△注意

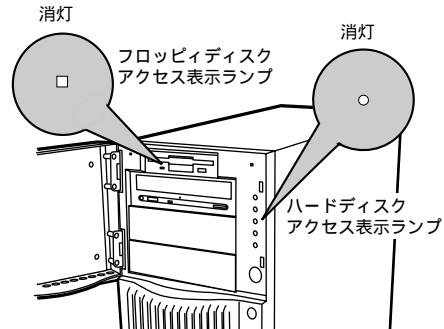


- 指示
- 以下の操作手順で電源を切ってください。操作手順に反すると、データが破壊される恐れがあります。
 - 発煙、発火などの異常が発生した場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災・感電の原因となります。

1 フロッピィディスクドライブおよび CD-ROM ドライブなどに媒体が挿入されていないことを確認します。

2 OS を終了します。

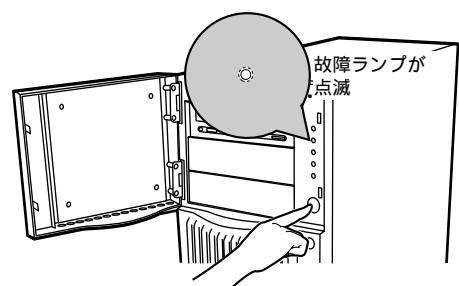
OS が Windows 2000 Server の場合は、OS 終了後サーバ本体の電源が切れます。
その他の OS の場合は、OS を終了し、フロッピィディスクとハードディスクのアクセス表示ランプが消えていることを確認します。



3 サーバ本体前面の電源スイッチを 2 回押します。

Windows 2000 Server 以外の OS の場合は、電源スイッチを 2 回押します。

電源スイッチを 1 回押すと、故障ランプが点滅します。点滅している間に電源スイッチをもう 1 回押すと、電源が切れます。



4 ディスプレイや周辺装置の電源スイッチを押します。

電源切断時の注意事項について（OS が Windows 2000 Server の場合）

- 電源スイッチを押してのシャットダウン、自動電源切断は使用できません。終了メニューからシャットダウン・自動電源切断をしてください。
- 電源スイッチで「スタンバイ状態」または「休止状態」に移行させる場合、2回電源スイッチを押す必要があります。
- 「スタンバイ状態」から電源スイッチを押して復帰する場合は、2回電源スイッチを押す必要があります。

3.4 フロッピィディスクのセット / 取り出し

フロッピィディスクのセット方法・取り出し方法は、以下のとおりです。

3.4.1 取扱い上の注意

△注意



フロッピィディスクを取り扱うときは、以下の点にご注意ください。

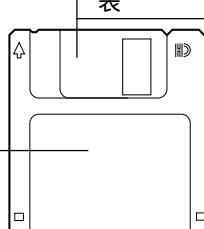
- ・ コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- ・ シャッタを開いて中のディスクに触らないでください。
- ・ 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- ・ 磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。
- ・ 固い床などに落とさないでください。
- ・ 高温 / 低温の場所に保管しないでください。
- ・ ラベルを何枚も重ねて貼らないでください。

フロッピィディスクの外観

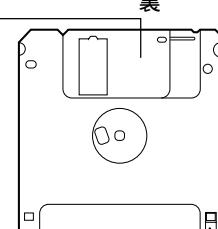
シャッタ

フロッピィディスクをドライブにセットするところが開き、データの読み・書きが行われます。

表



裏

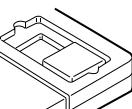
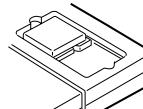


ラベル

記録してあるソフトウェア名や、データを記入してから貼ります。

ライトプロテクタ

フロッピィディスクへの書き込みを禁止します。書き込み禁止にするには、反対側が見えるようにライトプロテクタをスライドさせます。元に戻せば、再びデータの書き込みや消去ができます。



書き込み可能

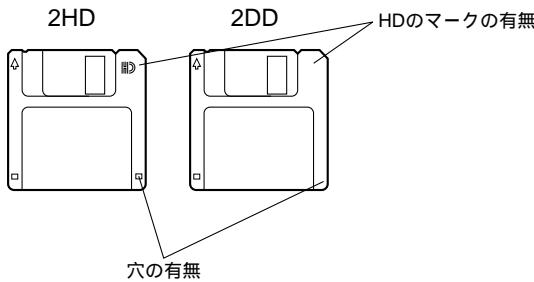
書き込み禁止

 コラム

フロッピィディスクについて
本サーバでは以下の2種類のフロッピィディスクを使用できます。

- 2HD (記憶容量 1.44MB)
- 2DD (記憶容量 720KB)

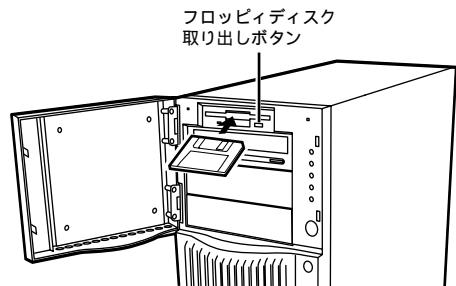
2種類の外見上の違いは、図のとおりです。



3.4.2 フロッピィディスクのセットと取り出し

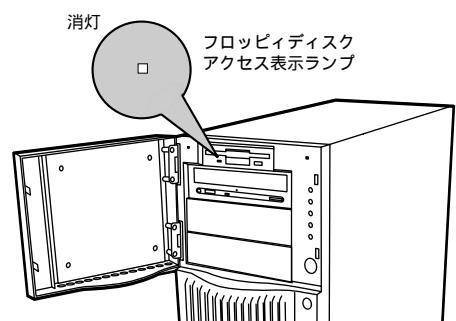
フロッピィディスクのセット

- 1 ラベルを上側に向け、シャッタのある側から、フロッピィディスクドライブに差し込みます。
カシャッと音がし、フロッピィディスク取り出しボタンが飛びだします。



フロッピィディスクの取り出し

- 1 フロッピィディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認して、取り出しボタンを押します。
フロッピィディスクが出てきます。



△注意



指示

フロッピィディスクアクセス表示ランプの点灯中にフロッピィディスクを取り出さないでください。フロッピィディスク内部のデータが破壊されるおそれがあります。

3.5 CD-ROM のセット / 取り出し

CD-ROM のセット方法・取り出し方法は、以下のとおりです。

3.5.1 取扱い上の注意

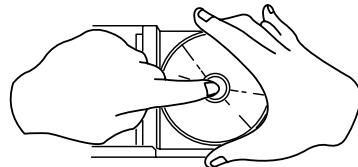


故障などを防ぐため、内蔵 CD-ROM ドライブユニットや CD-ROM を取り扱うときは、以下の点にご注意ください。

- 内蔵 CD-ROM ドライブユニット
 - 湿気やほこりや浮遊物の少ないところで使用してください。また、内部に水などの液体やクリップなどの金属類が入ると、感電や故障の原因となります。
 - 衝撃や振動の加わる場所では使用しないでください。
 - トレイには規定の CD-ROM 以外のディスクおよびディスク以外の物をセットしないでください。
 - トレイは、力を入れて引き出したり、強く押しつけたりしないでください。
 - CD-ROM ドライブユニットは絶対に分解しないでください。
 - トレイは使用前にきれいにしておいてください。清掃時は乾いたやわらかい布をご使用ください。
 - 長期間ご使用にならないときは、万一の事故を防ぐために CD-ROM ドライブユニットから CD-ROM を取り出しておいてください。また、CD-ROM ドライブユニットにほこりやゴミが入りこまないように、トレイを閉じた状態（ロード状態）にしておいてください。

- CD-ROM

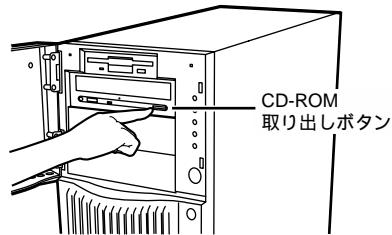
- ケースから取り出すときは、下図のように、ケースのセンター・ホルダーを押さえながら持ち上げてください。



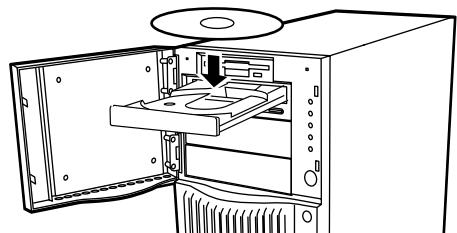
- CD-ROM の縁を持つようにして、表面に触れないように扱ってください。
- CD-ROM の表面に指紋、油、ゴミなどをつけないでください。汚れた場合には、乾いた柔らかい布で CD-ROM の内側から外側へ向けて拭いてください。ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。
- CD-ROM の表面に傷をつけないように十分注意してください。
- 熱を加えないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- レーベル面（印刷側）にボールペンや鉛筆などで文字を書かないでください。
- レーベル面にラベルなどを貼り付けないでください。偏芯によって異常振動が発生するおそれがあります。
- 屋外などの寒い場所から急に暖かい場所に移すと、表面上に水滴がついて、CD-ROM ドライブユニットがデータを読み込めないことがあります。このときは、乾いた柔らかい布で水滴を拭いてから、自然乾燥させてください。ヘアードライヤーなどで乾燥させないでください。
- ほこり、傷、変形などを避けるため、使用しないときはケースに入れて保管してください。
- 直射日光が長時間あたるところや暖房器具などの熱があたるところなど、高温になる場所での保管は避けてください。

3.5.2 CD-ROM のセットと取り出し

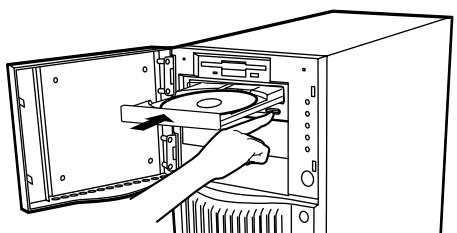
- 1 サーバ本体の電源が入っていることを確認して、CD-ROM 取り出しボタン (EJECT) を押します。
トレイが出てきます。



- 2 CD-ROM のレーベル面を上にして、トレイ中央に置きます。



- 3 CD-ROM 取り出しボタン (EJECT) を押します。
トレイが格納されます。



取り出しあり、上記のように CD-ROM 取り出しボタン (EJECT) を押して行います。



ポイント

本サーバの内蔵 CD-ROM ドライブユニットでは、下図のマーク
がついた CD-ROM をご利用になれます。



第4章 セットアップ

この章は、本サーバを動かす上で必要となる環境設定の方法を解説しています。

CONTENTS

4.1 セットアップの概要	38
4.2 ハードウェアの設定	39
4.3 BIOS セットアップユーティリティを使う	41
4.4 SCSI コンフィグレーションユーティリティを使う	87
4.5 BIOS 設定情報の退避 / 復元	102

4.1 セットアップの概要

本サーバを正常に機能させるためには、以下に示す作業を正しく行う必要があります。

ハードウェアの設定

サーバ本体や本体に装着するオプション装置、拡張カードのスイッチやジャンパピンなどの物理的な設定を実施し、確認します。このセットアップに誤りがあると、サーバが動作しない、または正しく機能しません。本章では、サーバ本体内にあるジャンパ設定について説明します。サーバ本体に内蔵するハードディスクドライブ、ドライブユニットおよび拡張カードの設定については、「第5章 内蔵オプションの取り付け」(107 ページ) および各オプション装置に添付の取扱説明書をご覧になり、正しく設定してください。

「4.2 ハードウェアの設定」(39 ページ) 参照

BIOS セットアップユーティリティ

BIOS (Basic Input Output System) は、キーボードやディスプレイなどの入出力装置を制御する基本的なソフトウェアです。BIOS セットアップユーティリティは、ハードウェアの設定を行う場合に使用します。本ユーティリティで設定したオプションパラメータは、サーバ本体内の CMOS RAM (以下、CMOS) および NVRAM に書き込まれます。

「4.3 BIOS セットアップユーティリティを使う」(41 ページ) 参照

SCSI コンフィグレーションユーティリティ

本サーバのオンボード SCSI と SCSI 装置 (内蔵 DAT ユニットなど) に関する各種設定ができます。SCSI コンフィグレーションユーティリティを使い、それぞれの SCSI バスに対して設定します。

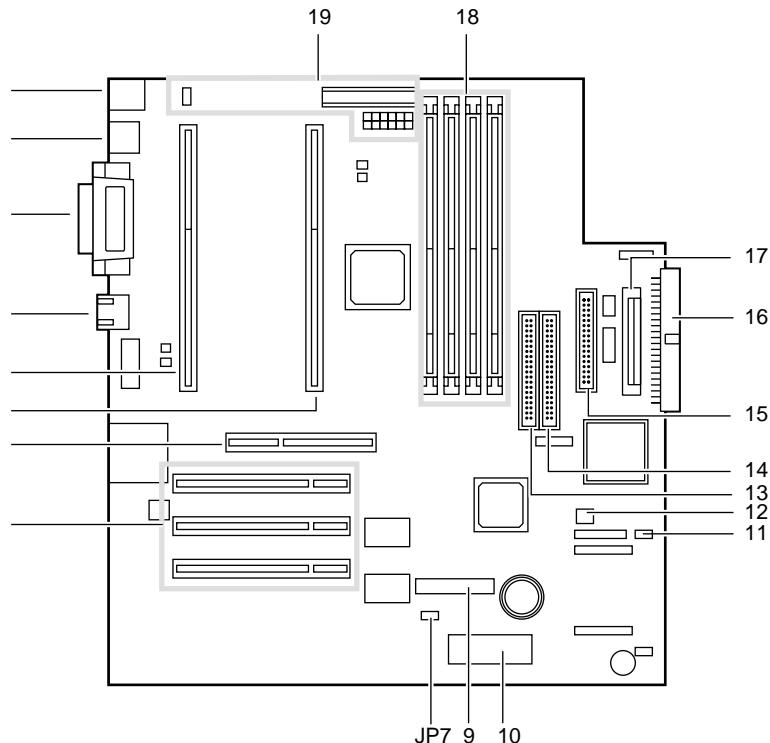
「4.4 SCSI コンフィグレーションユーティリティを使う」(87 ページ) 参照

4.2 ハードウェアの設定

ベースボード各部の名称とコンフィグレーションジャンパの設定は以下のとおりです。

ベースボード各部の名称

ベースボード各部の名称は以下のとおりです。



- | | |
|--|-----------------------------|
| 1 マウス / キーボードコネクタ | 10 システムBIOS |
| 2 USBコネクタ(Windows 2000 Serverの場合だけ使用可) | 11 ハードディスクアクセスLEDコネクタ(CN40) |
| 3 シリアルポートコネクタ×2 / パラレルポートコネクタ | 12 パッテリコネクタ |
| 4 10/100BASE-TXコネクタ | 13 セカンダリIDEコネクタ |
| 5 CPUスロット1 | 14 プライマリIDEコネクタ |
| 6 CPUスロット2 | 15 フロッピィディスクドライブコネクタ |
| 7 AGPスロット | 16 Narrow SCSIコネクタ(50ピン) |
| 8 PCIスロット | 17 Wide SCSIコネクタ(68ピン) |
| 9 拡張機能用コネクタ | 18 DIMMスロット |
| | 19 電源コネクタ |

コンフィグレーションジャンパ

ベースボード上のコンフィグレーションジャンパの設定について説明します。

ジャンパ 番号	ジャンパの設定 (ショートの設定)
JP7 (注)	1-2 BIOS 起動時にパスワードによるセキュリティ機能を有効にする
	2-3 BIOS 起動時にパスワードによるセキュリティ機能を有効にしない (工場出荷設定値)

注) JP7 の使用方法については、「4.3.12 System Security メニュー」の「Setup Password および Power-On Password のパスワードの設定方法」(81 ページ) を参照してください。

4.3 BIOS セットアップユーティリティを使う

BIOS セットアップユーティリティの概要や始め方について説明します。

4.3.1 BIOS セットアップユーティリティを使うとき

BIOS セットアップユーティリティとは、メモリやハードディスク、フロッピィディスクドライブなどのハードウェア環境を設定するためのプログラムです。

BIOS セットアップユーティリティは、以下の場合に行います。

- PCI カードの設定を行う場合
(「4.3.11 Advanced Configuration メニュー」の「 PnP/PCI System Configuration メニュー」(68 ページ) 参照)
 - パスワードの設定をする場合
(「4.3.12 System Security メニュー」(80 ページ) 参照)
- また、POST 中にエラーメッセージが表示されたときの対処として、BIOS セットアップユーティリティの設定内容を確認する必要があります。
(「第 8 章 故障かな？と思ったときには」の「8.2 エラーメッセージ」(291 ページ) 参照)



ヘルプ

BIOS セットアップユーティリティで設定した内容は、サーバ本体内部の CMOS RAM (以下、CMOS) および NVRAM に記録されます。この CMOS は、内蔵バッテリによって情報を保持しています。

セットアップを正しく行っても、POST でセットアップに関するメッセージが表示される場合は、CMOS に設定内容が保存されていないおそれがあります。原因としてバッテリが消耗していることが考えられますので、担当保守員までご連絡ください。

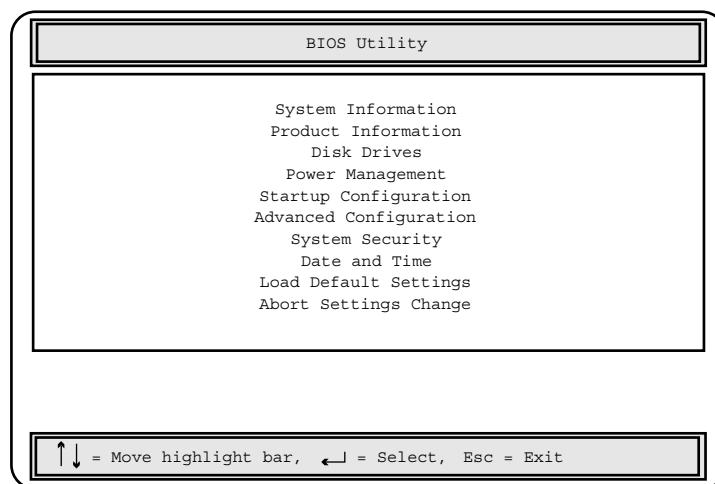
4.3.2 BIOS セットアップユーティリティの起動と終了

BIOS セットアップユーティリティの起動方法と終了の方法は、以下のとおりです。

BIOS セットアップユーティリティの起動方法

BIOS セットアップユーティリティの起動方法は以下のとおりです。

- 1 サーバ本体の電源を入れます。
- 2 POST のメモリカウント終了後、画面に [Enter Setup, Press Ctrl_Alt_Esc key] が表示されたら、メッセージが表示されている間に、[Ctrl] + [Alt] + [Esc] キーを押します。
メインメニュー画面が表示されます。



BIOS セットアップユーティリティの終了方法

BIOS セットアップユーティリティの終了方法は、以下のとおりです。

- 1 [Main] メニューから [Esc] キーを押します。次のメッセージが表示されます。

- 設定内容を変更しないで終了した場合

Do you really want to exit SETUP?

- 設定内容を変更して終了した場合

Settings have been changed.

Do you want to save CMOS settings?

- 2 [Space] キーで Yes か No にカーソルを合わせて [Enter] キーを押します。

- 設定内容を変更しないで終了した場合

そのまま終了するときには、「Yes」を選択します。本サーバが再起動されます。

終了せずに BIOS セットアップユーティリティに戻るときには、「No」を選択します。

- 設定内容を変更して終了した場合

設定内容を保存するには、「Yes」を選択します。保存しない場合は、「No」を選択します。本サーバが再起動されます。

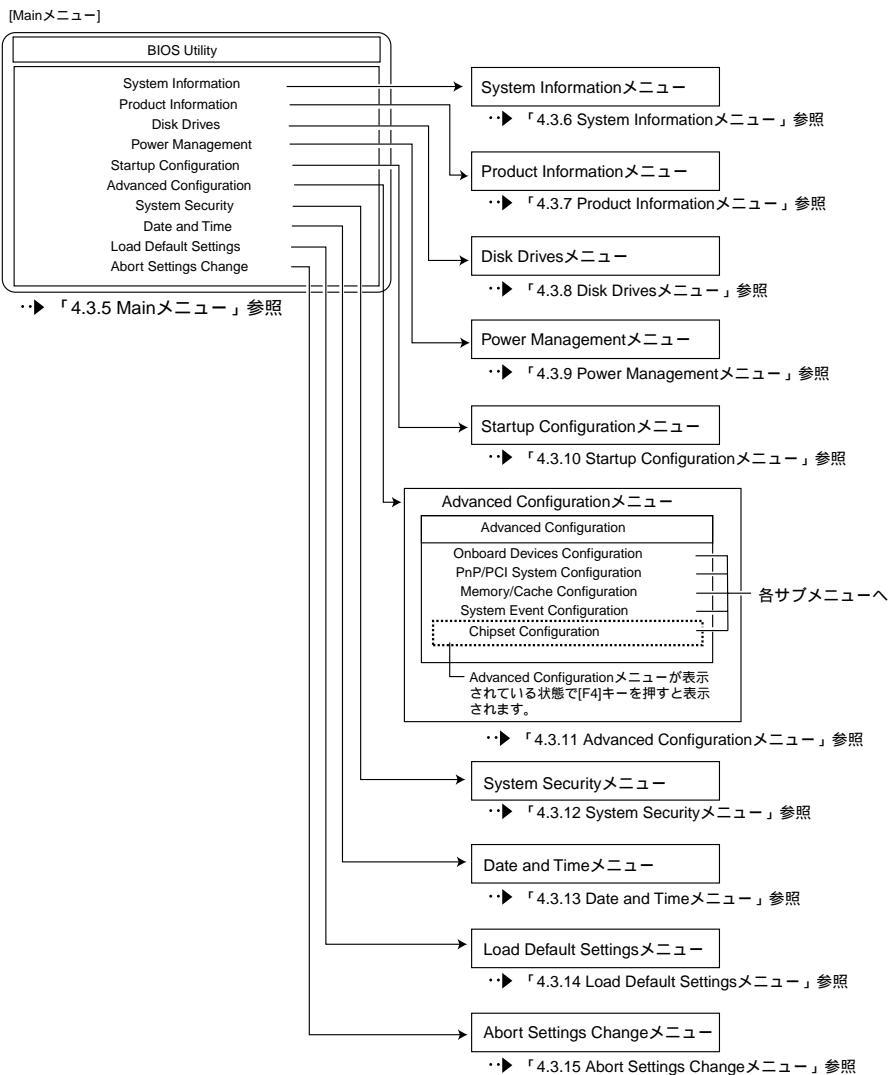
4.3.3 BIOS セットアップユーティリティでのキー操作

BIOS セットアップユーティリティの設定時に使用するキーの役割は、以下のとおりです。

[F1]	ヘルプを表示します。
[Esc]	現在の操作を中止し、前の操作にもどります。
[Enter]	設定項目を選択します。「Press Enter」となっている項目は、サブメニューがあることを示します。この項目のサブメニューを表示します。サブメニューが表示された状態で [Esc] キーを押すと、メニュー画面に戻ります。
[←][→]	設定する項目にカーソルを移動します。
[↑][↓]	メニューを切り替えます。
[PageUp]	次画面または前画面に移ります。
[PageDown]	
[Home]	メニューの先頭に移動します。
[End]	メニューの最後に移動します。

4.3.4 メニューと項目一覧

BIOS セットアップユーティリティは、10 個のメニューから構成されています。ここでは、メニューと設定項目を一覧で説明します。



以下に、BIOS セットアップユーティリティで変更することができるメニュー項目を一覧で説明します。これらのメニュー項目以外は、工場出荷設定値を変更しないでください。

各項目の詳細は、次の節以降を参照してください。

メニュー名	説明
変更可能な項目名	
System Information	本サーバの現在のハードウェア設定情報を表示します。
なし	-
Product Information	本サーバの製品情報を表示します。
なし	-
Disk Drives	ドライブに関する設定をします。
なし	-
Power Management	省電力モードに関する設定をします。
なし	-
Startup Configuration	電源投入時の設定をします。
Partial Test	メモリテストを高速モードにするかどうかを設定します。メモリテストを高速モードにする場合は、「Enabled」に設定してください。
Release All Blocked Memory	BIOS が保持している異常 RAM モジュールの情報をクリアにするかどうか設定します。RAM モジュール異常検出による RAM モジュール交換時に「Enabled」に設定してください。
Configuration Table	本サーバの POST 後、構成表を表示するかどうかを設定します。Main メニューで [F4] キーを押すと表示されます。
Initialize SCSI Before IDE	OS をどの装置から読み込むかを設定します。
System Boot Drive	OS をどのドライブから読み込むかを設定します。
Boot from IDE CD-ROM	起動用 CD-ROM からシステムを起動するかどうかを設定します。起動用 CD-ROM からシステムを起動するときは「Enabled」に設定してください。
Boot from Onboard SCSI Device	起動時に、オンボード SCSI から起動するかどうかを設定します。アレイシステム構成時には、変更する必要があります。
Advanced Configuration	ベースボードに関する各種設定をします。それぞれサブメニューがあります。
Onboard Devices Configuration	装置の設定をします。
Serial Port 1	シリアルポート 1 を有効にするかどうかを設定します。
Base Address	シリアルポート 1 の I/O ポートアドレスを設定します。
IRQ	シリアルポート 1 の IRQ を設定します。
Serial Port 2	シリアルポート 2 を有効にするかどうかを設定します。
Base Address	シリアルポート 2 の I/O ポートアドレスを設定します。
IRQ	シリアルポート 2 の IRQ を設定します。
Parallel Port	パラレルポートの I/O アドレスと IRQ を設定します。

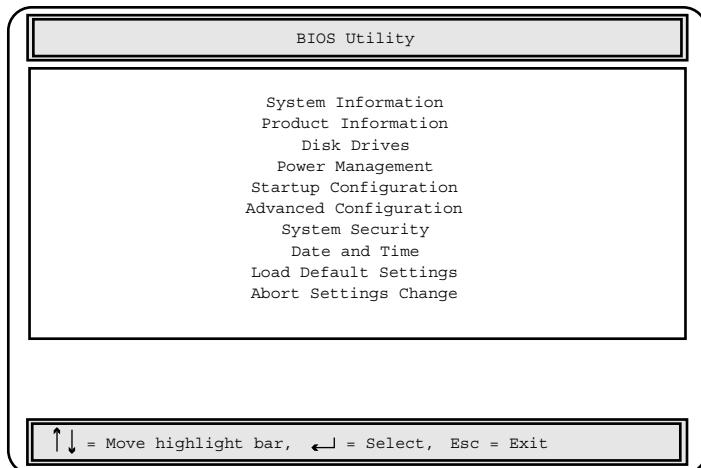
メニュー名	説明	
変更可能な項目名		
Base Address IRQ Onboard USB Onboard SCSI Onboard Ethernet Chip	Base Address	パラレルポートの I/O ポートアドレスを設定します。
	IRQ	パラレルポート IRQ を設定します。
	Onboard USB	USB コントローラを使用するかどうかを設定します。 OS が、Windows 2000 Server の場合は「Enabled」に設定することで使用できます。
	Onboard SCSI	オンボードの SCSI コントローラを有効にするかどうかを設定します。
	Onboard Ethernet Chip	オンボードの LAN を有効にするかどうかを設定します
PnP/PCI System Configuration PCI IRQ Setting PCI Slot 1 PCI Slot 2 PCI Slot 3 Onboard SCSI AGP Onboard LAN Reset Resource Assignments	PnP/PCI System Configuration	PCI バスに関する設定をします。
	PCI IRQ Setting	オンボード SCSI / オンボード LAN や PCI カードの割り込みレベルを設定する項目です。
	PCI Slot 1	PCI カードを取り付けるときに、個別に割り込みレベルを設定します。
	PCI Slot 2	
	PCI Slot 3	
	Onboard SCSI	サーバ本体の SCSI コントローラの割り込みレベルを設定します。
	AGP	サーバ本体の AGP の割り込みレベルを設定します。
	Onboard LAN	サーバ本体の LAN の割り込みレベルを設定します。
	Reset Resource Assignments	PCI カードに割り当てたシステム資源をリセットするかどうかを設定します。
	Memory /Cache Options なし	メモリに関する設定をします。 -
CPU Speed Configuration なし	CPU Speed Configuration	CPU の速度に関する設定をします。
	なし	-
	System Event Configuration System Event Logging Clear Event Log	イベントに関する設定をします。 イベントログに関する設定をします。 イベントログの消去を行うかどうかを設定します。
Chipset Configuration Processor Serial Number	Chipset Configuration	チップセットに関する詳細情報を設定します。 Main メニューまたは Advanced Configuration メニューで [F4] キーを押すと表示されます。
	Processor Serial Number	プロセッサシリアル番号参照機能を有効にするかどうかを設定します。
System Security Disk Drive Control Setup Password Power-on Password Operation Mode	System Security	セキュリティに関する設定をします。
	Disk Drive Control	フロッピィディスク、ハードディスクへの書き込みや読み込みを禁止します。
	Setup Password	特定の人だけが BIOS セットアップできるようにパスワードを設定します。
	Power-on Password	特定の人だけが本サーバを使用できるようにパスワードを設定します。
	Operation Mode	パスワード設定時の操作方法を設定します。
Date and Time	日時を設定します。	

メニュー名	説明
変更可能な項目名	
Date	曜日 / 月 / 日 / 年 (西暦) を設定します。
Time	時 : 分 : 秒を設定します。時間は 24 時間形式で入力します。

4.3.5 Main メニュー

ここでは、Main メニューについて説明します。

BIOS セットアップユーティリティを起動すると、最初にこのメニューが表示されます。



[↑][↓]キーを押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせ、[Enter]キーを押すと、メニューが表示されます。

4.3.6 System Information メニュー

System Information メニューは、本サーバの現在のハードウェア設定情報を表示します。2ページで構成されています。

設定を変更することはできません。

各メニューの詳細のマークは、次の意味です。

：項目名

：項目のサブメニュー

-：設定内容

System Information		Page 1/2
Processor	-----	Pentium III
Processor Speed	-----	850 MHz
Bus Frequency	-----	100 MHz
Internal Cache	-----	32 KB, Enabled
External Cache	-----	512 KB, Enabled
Floppy Drive A	-----	1.44MB 3.5-inch
Floppy Drive B	-----	None
IDE Primary Channel Master	-----	Hard Disk, xxxx MB
IDE Primary Channel Slave	-----	None
IDE Secondary Channel Master	-----	CD-ROM
IDE Secondary Channel Slave	-----	None
Total Memory	-----	128 MB
Memory Type	-----	SDRAM

PgUp PgDn = Move screen, Esc = Back to Main Menu

Processor

システムに搭載しているプロセッサ名を表示します。

Processor Speed

プロセッサ動作周波数を表示します。

Bus Frequency

システムバス動作周波数を表示します。

Internal Cache

内部キャッシュ (L1) 搭載サイズを表示します。

External Cache

外部キャッシュ (L2) 搭載サイズを表示します。

Floppy Drive A / Floppy Drive B

フロッピィディスクドライブのタイプ (記録密度とドライブサイズ) を表示します。

IDE Primary Channel Master

プライマリ IDE のマスターに取り付けられている内蔵ドライブのタイプを表示します。

IDE Primary Channel Slave

プライマリ IDE のスレーブに取り付けられている内蔵ドライブのタイプを表示します。

IDE Secondary Channel Master

セカンダリ IDE のマスターに取り付けられている内蔵ドライブのタイプを表示します。

IDE Secondary Channel Slave

セカンダリ IDE のスレーブに取り付けられている内蔵ドライブのタイプを表示します。

Total Memory

本サーバが利用できるメモリサイズを表示します。

Memory Type

本サーバが現在使用しているメモリ種別を表示します。

System Information		Page 2/2
Serial Port 1	-----	3F8h, IRQ 4
Serial Port 2	-----	2F8h, IRQ 3
Parallel Port	-----	3BCh, IRQ 7
Pointing Device	-----	Installed
Memory Parity Mode	-----	ECC
Onboard USB	-----	Disabled

Serial Port 1

シリアルポート 1 の設定情報 (I/O ポートアドレス、IRQ) を表示します。

Serial Port 2

シリアルポート 2 の設定情報 (I/O ポートアドレス、IRQ) を表示します。

Parallel Port

パラレルポートの設定情報 (I/O ポートアドレス、IRQ) を表示します。

Pointing Device

マウスの接続状態を表示します。

Memory Parity Mode

メモリparityエラー検出機構の設定情報を表示します。

Onboard USB

ベースボード上の USB の設定情報を表示します。

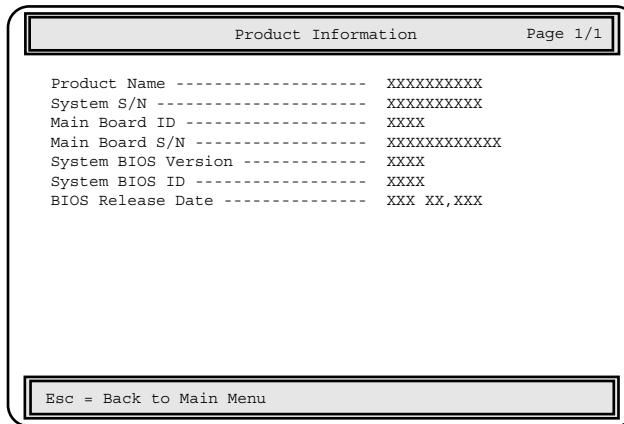
4.3.7 Product Information メニュー

Product Information メニューは、本サーバの製品情報を表示します。

設定を変更することはできません。

各メニューの詳細のマークは、次の意味です。

- ：項目名
- ：項目のサブメニュー
- ：設定内容



Product Name

製品名を表示します。

System S/N

シリアルナンバーを表示します。

Main Board ID

ベースボードの ID を表示します。

Main Board S/N

ベースボードのシリアルナンバーを表示します。

System BIOS Version

BIOS の版数を表示します。

System BIOS ID

BIOS の識別 ID を表示します。

BIOS Release Date

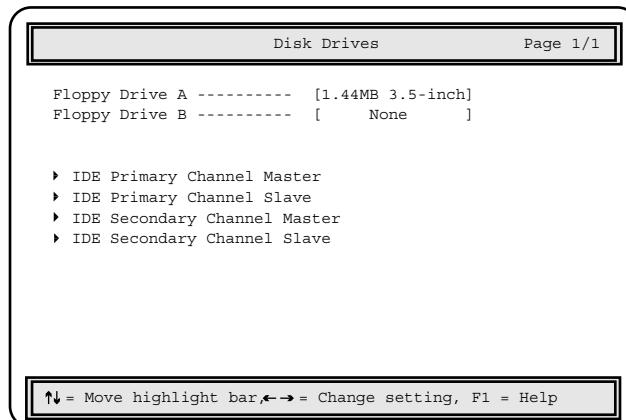
BIOS の作成日を表示します。

4.3.8 Disk Drives メニュー

Disk Drives メニューは、ドライブに関する設定を行うメニューです。

各メニューの詳細のマークは、次の意味です。

- ：項目名
- ：項目のサブメニュー
- ：設定内容



Floppy Drive A (変更禁止)

フロッピィディスクドライブのタイプ (記録密度とドライブサイズ) を設定します。設定値は、以下のとおりです。

- None
- 360KB 5.25-inch
- 1.2MB 5.25-inch
- 720KB 3.5-inch
- 1.44MB 3.5-inch (工場出荷設定値)
- 2.88MB 3.5-inch

Floppy Drive B (変更禁止)

フロッピィディスクドライブのタイプ (記録密度とドライブサイズ) を設定します。設定値は、以下のとおりです。

- None (工場出荷設定値)
- 360KB 5.25-inch
- 1.2MB 5.25-inch
- 720KB 3.5-inch
- 1.44MB 3.5-inch
- 2.88MB 3.5-inch

IDE Primary Channel Master (変更禁止)

IDE Primary Channel Slave (変更禁止)

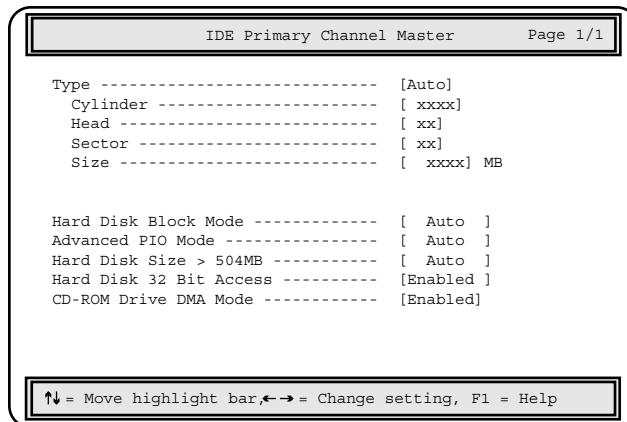
IDE Secondary Channel Master (変更禁止)

IDE Secondary Channel Slave (変更禁止)

IDE 規格のドライブ装置の各種設定を行います。

サブメニューを使って、プライマリ IDE コネクタとセカンダリ IDE コネクタに取り付けたマスターとスレーブのハードディスクなどのタイプ（容量やシリンド数など）を設定します。

カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、サブメニューの画面が表示されます。



Type (変更禁止)

IDE ドライブのタイプを設定します。

- Auto (工場出荷設定値)
 - 本サーバから自動的に IDE ドライブのタイプを設定します。
- None
 - IDE ドライブを認識しない状態にします。
- User
 - User を選択すると、シリンド数などの情報を設定できる状態になります。
 - Cylinder : シリンド数を設定します。
 - Head : ヘッド数を設定します。
 - Sector : セクタ容量を設定します。
 - Size : 記憶容量を設定します。

Hard Disk Block Mode (変更禁止)

ブロック転送(データを複数セクタ分まとめて転送すること)を行うかどうかを設定します。

- Auto (工場出荷設定値)
ブロック転送を行います。
- Disabled
ブロック転送を行いません。

Advanced PIO Mode (変更禁止)

PIO (Programmed I/O) モードのうち、最も高速な PIO モードに自動設定します。

- Auto (工場出荷設定値)
高速な PIO モードに自動設定します。
- Mode0/Mode1/Mode2/Mode3/Mode4
PIO モードを設定します (Mode0 ~ Mode4)。

Hard Disk Size > 504MB (変更禁止)

本サーバに 504MB 以上のハードディスクを取り付けたときに設定します。

- Auto (工場出荷設定値)
ハードディスクの容量を自動的に認識します。
- Disabled
504MB 未満のハードディスクを取り付けたときに設定します。

Hard Disk 32 Bit Access (変更禁止)

ハードディスクコントローラに 32 ビットでアクセスできるように設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
ハードディスクコントローラに32ビットでアクセスするときに選択します。
- Disabled
ハードディスクコントローラに32ビットでアクセスしないときに選択します。

CD-ROM Drive DMA Mode (変更禁止)

CD-ROM 装置で DMA (Direct Memory Access) 転送を使用するかどうかを設定します。

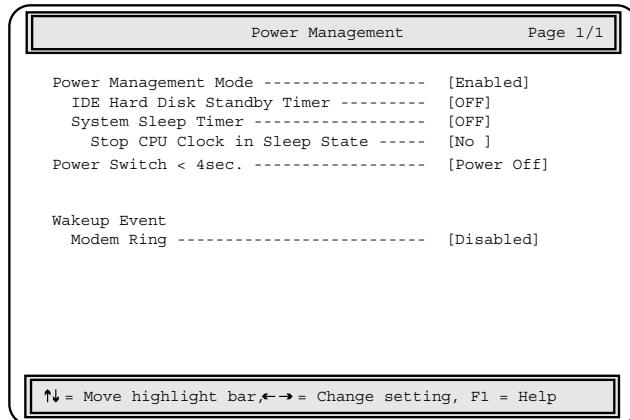
- Enabled (工場出荷設定値)
DMA 転送を使用します。
- Disabled
DMA 転送を使用しません。

4.3.9 Power Management メニュー

Power Management メニューは、省電力モードに関する設定を行うメニューです。

各メニューの詳細のマークは、次の意味です。

- : 項目名
- : 項目のサブメニュー
- : 設定内容



Power Management Mode (変更禁止)

省電力モードにするかどうかを設定します。

- Disabled
省電力モードにしません。省電力モードに関する設定項目は、灰色の文字で表示され、設定できなくなります。
- Enabled (工場出荷設定値)
省電力モードにします。

IDE Hard Disk Standby Timer (変更禁止)

内蔵ハードディスクを、スタンバイモード（一部の回路を停止させた状態）に移行させるまでの時間を設定します。ハードディスクにアクセスすると、スタンバイモードから通常の状態に数秒で戻ります。

- OFF (工場出荷設定値)
スタンバイモードになりません。
- 1 ~ 15
1 分から 15 分の間で任意の時間を設定します。その時間ハードディスクへのアクセスがないと、ハードディスクがスタンバイモードになります。

System Sleep Timer (変更禁止)

システムをスリープ状態に移行するまでの時間を設定します。

- OFF (工場出荷設定値)
システムスリープ機能を無効にします。
- 2 ~ 120
2 分から 120 分の間で任意の時間を設定します。

Stop CPU Clock in Sleep State (変更禁止)

スリープ状態において、CPU に供給するクロックを停止するかどうかを設定します。

- Yes
停止します。
- No (工場出荷設定値)
停止しません。

Power Switch < 4sec. (変更禁止)

電源スイッチによるサスPEND機能を有効にするかどうかを設定します。

- Suspend
電源スイッチを押す時間が 4 秒未満のときは、サスPENDになり、4 秒以上のときは電源が切断されます。
- Power Off (工場出荷設定値)
電源スイッチを押す時間の長さに関係なく、電源スイッチを押すと電源が切断されます。

Wakeup Event / Modem Ring (変更禁止)

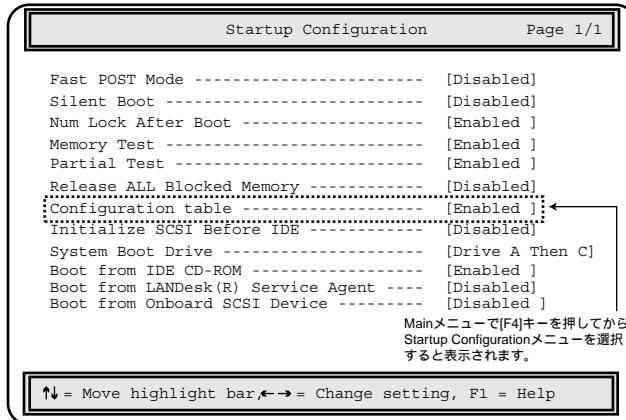
モデムを使った電話回線からの着信で、省電力モードから復帰させるかどうかを設定します。

- Enabled
省電力モードから復帰します。
- Disabled (工場出荷設定値)
省電力モードから復帰しません。

4.3.10 Startup Configuration メニュー

Startup Configuration メニューは、電源投入時の処理の設定を行うメニューです。各メニューの詳細のマークは、次の意味です。

- ：項目名
- ：項目のサブメニュー
- ：設定内容



Fast POST Mode (変更禁止)

POST (Power-On Self Test) を省略して起動するかどうかを設定します。

- Auto
POST の一部の処理を省略して起動します。
- Disabled (工場出荷設定値)
POST を省略せずに起動します。

Silent Boot (変更禁止)

本サーバでは無効の機能です。いずれの設定値を選んでも POST の途中経過を画面に表示します。

- Enabled
- Disabled (工場出荷設定値)

Num Lock After Boot (変更禁止)

起動したあとに、キーボードを Num Lock 状態 (テンキーから数字などを入力できる状態) にするかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
キーボードを Num Lock 状態にします。
- Disabled
キーボードを Num Lock 状態にしません。

Memory Test (変更禁止)

POST で、メモリテストを行うかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
メモリテストを行います。
- Disabled
メモリテストを行いません。

Partial Test

メモリテストを高速モードにするかどうかを設定します。

メモリテストを高速モードにする場合は、「Enabled」に設定してください。

- Enabled (工場出荷設定値)
高速モードにします。
- Disabled
高速モードにしません。

Release All Blocked Memory

BIOS が保持している異常 RAM モジュールの情報をクリアするかどうか設定します。

RAM モジュール異常検出による RAM モジュール交換後に、「Enabled」に設定してください。

- Enabled
情報をクリアします。設定後、次回起動時にクリアされ、この設定値は [Disabled] に戻ります。
- Disabled (工場出荷設定値)
情報をクリアしません。

Configuration Table

本サーバの POST 後、構成表を画面に表示するかどうかを設定します。

Main メニューで [F4] キーを押してから、Startup Configuration メニューを選択すると表示されます。

- Enabled (工場出荷設定値)
構成表を表示します。
- Disabled
構成表を表示しません。

Initialize SCSI Before IDE

OS をどの装置から読み込むかを設定します。

- Enabled
先に SCSI 規格の装置を初期化します。
- Disabled (工場出荷設定値)
先に IDE 規格の装置を初期化します。

System Boot Drive

OS をどのドライブから読み込むかを設定します。

- Drive A then C (工場出荷設定値)
A ドライブから読み込みます。そして、A ドライブで OS が見つからない場合は、C ドライブから読み込みます。
- Drive A
A ドライブから読み込みます。
- Drive C
C ドライブから読み込みます。
- Drive C Then A
C ドライブから読み込みます。そして、C ドライブで OS が見つからない場合は、A ドライブから読み込みます。

Boot from IDE CD-ROM

起動用 CD-ROM からシステムを起動するかどうかを設定します。起動用 CD-ROM からシステムを起動するときは「Enabled」を設定してください。

- Enabled (工場出荷設定値)
CD-ROM からシステムを起動できます。
- Disabled
「System Boot Drive」で指定したドライブからシステムを起動します。

Boot from LANDesk® Service Agent (変更禁止)

LANDesk® サービスエージェントからシステムを起動するかどうかを設定します。

本サーバではサポートしていない機能です。

- Enabled
LANDesk® サービスエージェントから起動します。
- Disabled (工場出荷設定値)
LANDesk® サービスエージェントから起動しません。

Boot from Onboard SCSI Device

オンボード SCSI からシステムを起動するかどうかを設定します。

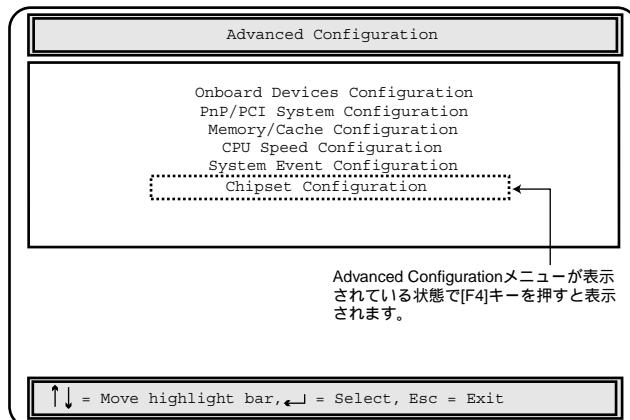
アレイシステム構成時には、「Disabled」に設定してください。

- Enabled (工場出荷設定値：ディスクレスタイプ / OS インストールタイプの場合)
オンボード IDE またはオンボード SCSI に接続されているハードディスクから起動します。
- Disabled (工場出荷設定値：IDE アレイタイプの場合)
SCSI カード、SCSI アレイコントローラカードまたは IDE アレイコントローラカードに接続されているハードディスクから起動します。

4.3.11 Advanced Configuration メニュー

Advanced Configuration メニューは通常 5 つのメニューで構成されています。本メニューが表示されている状態で [F4] キーを押すとメニューが 1 つ追加されます。各メニューの詳細のマークは、次の意味です。

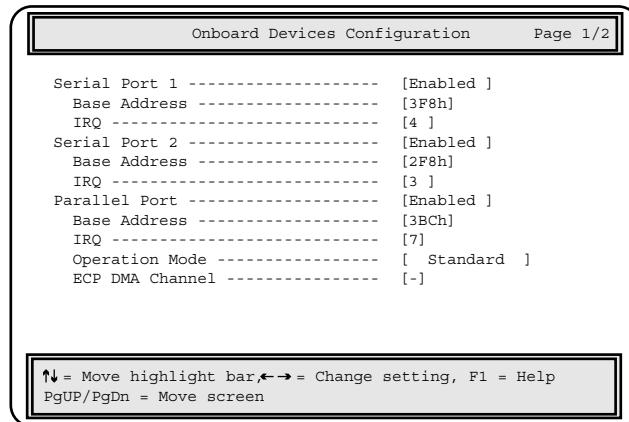
- : 項目名
- : 項目のサブメニュー
- : 設定内容



各メニューを選択すると、それぞれのサブメニュー画面が表示されます。

Onboard Devices Configuration メニュー

ベースボード上の装置 (シリアルポート、パラレルポート、フロッピィディスクコントローラ、IDE コントローラ、SCSI コントローラ、マウス、USB、LAN) の設定をします。



Serial Port 1

シリアルポート 1 の I/O ポートアドレスと IRQ (割り込みレベル) の設定を有効にするかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
設定を有効にします。Base Address/IRQ を設定してください。
 - Disabled
設定を無効にします。

Base Address

シリアルポート 1 の I/O ポートアドレスを設定します。

- 2E8h
 - 2F8h
 - 3E8h
 - 3F8h (工場出荷設定値)

IRQ

シリアルポート 1 の IRQ を設定します。

- 4 (工場出荷設定値)
 - 11

Serial Port 2

シリアルポート2のI/OポートアドレスとIRQの設定を有効にするかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
設定を有効にします。Base Address/IRQ を設定してください。
 - Disabled
設定を無効にします。

Base Address

シリアルポート 2 の I/O ポートアドレスを設定します。

- 2E8h
 - 2F8h (工場出荷設定値)
 - 3E8h
 - 3F8h

100

シリアルポート2のIRQを設定します。

- 3 (工場出荷設定値)
 - 10

Parallel Port

パラレルポートの I/O ポートアドレスと IRQ の設定を有効にするかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
設定を有効にします。Base Address/IRQ を設定してください。
- Disabled
設定を無効にします。

Base Address

パラレルポートの I/O ポートアドレスを設定します。

- 3BCh (工場出荷設定値)
- 378h
- 278h

IRQ

パラレルポートの IRQ を設定します。

- 5
- 7 (工場出荷設定値)

Operation Mode (変更禁止)

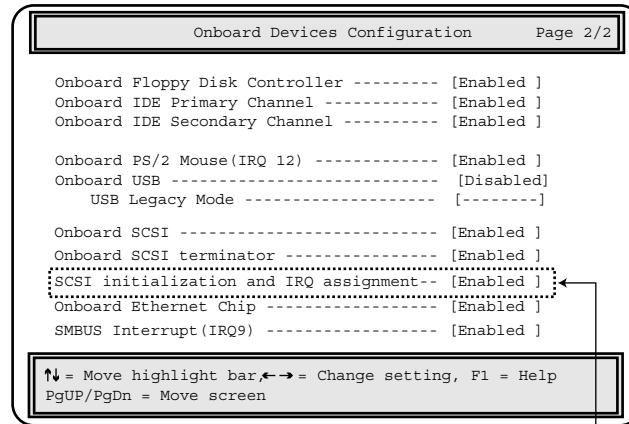
パラレルコネクタに接続する周辺装置の種類を設定します。

- Standard (工場出荷設定値)
出力専用モードを使用する周辺装置を接続します。
- Bi-directional
双方向モードを使用する周辺装置を接続します。
- ECP
ECP 規格の周辺装置を接続します。
- EPP
双方向モードを最大スピードで使用する EPP 規格 (Enhanced Parallel Port) 規格の周辺装置を接続します。

ECP DMA Channel (変更禁止)

パラレルポートを ECP モードで動作させる場合に、パラレルポートが使用する DMA チャネルを設定します。Operation Mode を「ECP」に設定した場合のみ設定できます。

- 1
DMA チャネル 1 を使います。
- 3
DMA チャネル 3 を使います。
- - (工場出荷設定値)
DMA チャネルを使いません。



Mainメニューで[F4]キーを押してから
Onboard Devices Configurationメニューを選択すると表示されます。

Onboard Floppy Disk Controller (変更禁止)

フロッピィディスクコントローラを使用するかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
フロッピィディスクコントローラを使用します。
- Disabled
フロッピィディスクコントローラを使用しません。

Onboard IDE Primary Channel (変更禁止)

プライマリ IDE を有効にするかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
有効にします。
- Disabled
無効にします。

Onboard IDE Secondary Channel (変更禁止)

セカンダリ IDE を有効にするかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
有効にします。
- Disabled
無効にします。

Onboard PS/2 Mouse(IRQ 12) (変更禁止)

マウスコネクタに接続したマウスを使用するかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
マウスを使用します。
- Disabled
マウスを使用しません。

Onboard USB (変更禁止)

USB コントローラを使用するかどうかを設定します。

OS が、Windows 2000 Server の場合は「Enabled」に設定することで使用できます。

- Enabled

USB コントローラを使用します。

- Disabled (工場出荷設定値)

USB コントローラを使用しません。

USB Legacy Mode (変更禁止)

USB 対応キーボードを MS-DOS 環境のもとで有効にするかどうかを設定します。

Onboard USB が「Disabled」のときは選択できません。

- Enabled

有効にします。

- Disabled (工場出荷設定値)

無効にします。

Onboard SCSI

オンボードの SCSI コントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)

有効にします。

- Disabled

無効にします。

Onboard SCSI terminator (変更禁止)

オンボード SCSI のイニシエータの終端を有効にするかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)

有効にします。

- Disabled

無効にします。

SCSI initialization and IRQ assignment (変更禁止)

Main メニューで [F4] キーを押してから、Onboard Devices Configuration メニューを選択すると表示されます。

- Enabled (工場出荷設定値)

- Disabled

Onboard Ethernet Chip

オンボードの LAN を有効にするかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
有効にします。
- Disabled
無効にします。

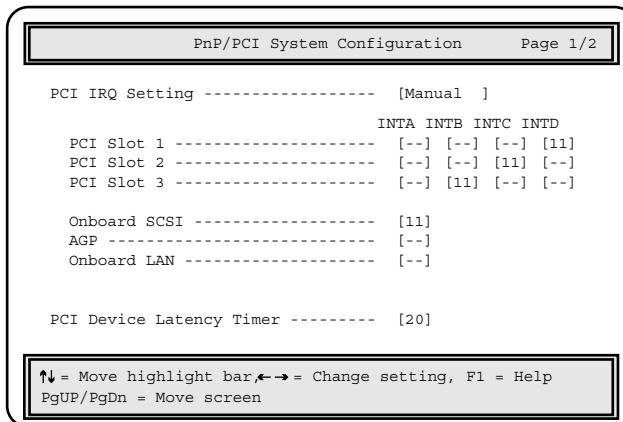
SMBUS Interrupt (IRQ9) (変更禁止)

SMBUS(System Management BUS) 割り込み (IRQ9) を他のデバイスと共有できるかどうかを設定します。IRQ9 は LDSM のシステム監視で使用します。

- Enabled (工場出荷設定値)
IRQ9 を他のデバイスと共有できないようにします。
- Disabled
IRQ9 を他のデバイスと共有できるようにします。
共有するデバイスによっては、システムパフォーマンスが低下することおよび正常に動作できないことがあります。

PnP/PCI System Configuration メニュー

オンボード上の PCI バスに関する設定を行うメニューです。PCI カードの IRQ の共有を設定する場合はこのメニューで設定します。



PCI IRQ Setting

オンボード SCSI / オンボード LAN / AGP や PCI カードの割り込みレベル (IRQ) を設定する項目です。

- Auto
自動的に設定します。
- Manual (工場出荷設定値)
手動で設定します。

PCI Slot 1 / PCI Slot 2 / PCI Slot 3

PCI カードを取り付けるときに、個別に割り込みレベルを設定します。IRQ の設定 / 共有については、「5.6 拡張カードの取り付け」(151 ページ) の拡張カードごとの留意事項に注意して設定 / 共有してください。

- -- (工場出荷設定値)
- 05 / 09 / 10 / 11 / 15
なお、9 および 15 は設定しないでください。
- 03 / 04 / 07
パラレルポート、シリアルポートを使用していないときは、該当するポートを「Disabled」にすることで、空いている IRQ を設定できます。(「Onboard Devices Configuration メニュー」(62 ページ) 参照)

Onboard SCSI

サーバ本体の SCSI コントローラの割り込みレベルを設定します。

- 11 (工場出荷設定値)
- - / 05 / 09 / 10 / 15
なお、9 および 15 は設定しないでください。
- 03 / 04 / 07
パラレルポート、シリアルポートを使用していないときは、該当するポートを「Disabled」にすることで、空いている IRQ を設定できます。
(「Onboard Devices Configuration メニュー」(62 ページ) 参照)

AGP

サーバ本体の AGP の割り込みレベルを設定します。

- 05 (工場出荷設定値)
- - / 09 / 10 / 11 / 15
なお、9 および 15 は設定しないでください。
- 03 / 04 / 07
パラレルポート、シリアルポートを使用していないときは、該当するポートを「Disabled」にすることで、空いている IRQ を設定できます。
(「Onboard Devices Configuration メニュー」(62 ページ) 参照)

Onboard LAN

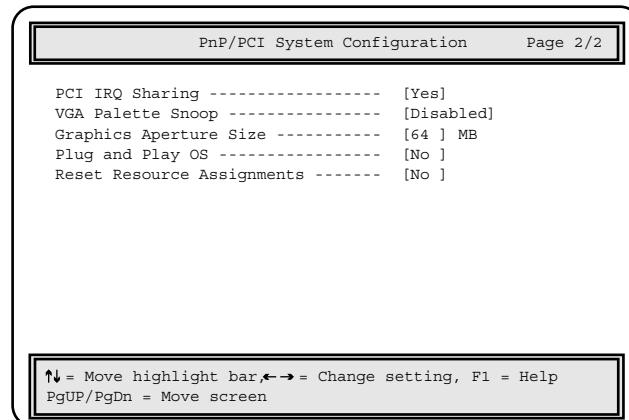
サーバ本体の LAN の割り込みレベルを設定します。

- 10 (工場出荷設定値)
- - / 05 / 09 / 11 / 15
なお、9 および 15 は設定しないでください。
- 03 / 04 / 07
パラレルポート、シリアルポートを使用していないときは、該当するポートを「Disabled」にすることで、空いている IRQ を設定できます。
(「Onboard Devices Configuration メニュー」(62 ページ) 参照)

PCI Device Latency Timer (変更禁止)

PCI カードが PCI バスにアクセスすることを保証するクロック数を設定します。

- 20 (工場出荷設定値)
- 00 / 10 / 30 / 40 / 50 / 60 / 70 / 80 / 90 / A0 / B0 / C0 / D0 / E0 / F0



PCI IRQ Sharing (変更禁止)

複数の PCI カードで IRQ を共有させるかどうかを設定します。

- Yes (工場出荷設定値)
IRQ を共有させます。
- No
IRQ を共有させません。

VGA Palette Snoop (変更禁止)

サーバ本体のビデオコントローラのパレット情報(画面に表示する色を定義した情報)を、ディスプレイカードなどのビデオコントローラからも参照できるように設定します。

- Enabled
ビデオコントローラから参照できます。
- Disabled (工場出荷設定値)
ビデオコントローラから参照できません。

Graphics Aperture Size (変更禁止)

グラフィックカードが使用可能なメモリ領域の最大値を設定します。
工場出荷設定値は 64 です。

- 4 / 8 / 16 / 32 / 64 / 128 / 256MB

Plug and Play OS (変更禁止)

システム起動時に、どのデバイスを初期化するかを設定します。

- Yes
　　プラグアンドプレイ対応の OS が、必要なデバイスだけを初期化します。
- No (工場出荷設定値)
　　すべてのデバイスを初期化します。

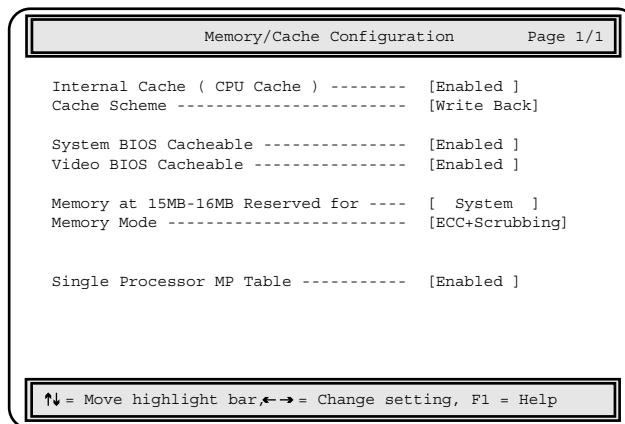
Reset Resource Assignments

PCI カードに割り当てたシステム資源 (I/O ポートアドレス、IRQ、メモリ空間など) をリセットするかどうかを設定します。(再起動後、PCI カードについては初期値に戻ります。)

- Yes
　　システム資源をリセットします。
- No (工場出荷設定値)
　　システム資源をリセットしません。

Memory/Cache Configuration メニュー

Memory/Cache Configuration メニューは、メモリに関する設定をします。



Internal Cache (CPU Cache) (変更禁止)

システムの内部キャッシュメモリの設定をします。

- Enabled (工場出荷設定値)
キャッシュメモリを有効にします。
- Disabled
キャッシュメモリを無効にします。

Cache Scheme (変更禁止)

キャッシュメモリの制御方式を設定します。

- Write Back (工場出荷設定値)
CPU によるメモリへのデータ書き込み時のデータ更新をライトバック方式で行います。
- Write Through
CPU によるメモリへのデータ書き込み時のデータ更新をライトスルー方式で行います。

System BIOS Cacheable (変更禁止)

BIOS 部分をメインメモリ上にシャドウイングするかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
メモリ上にシャドウイングします。
- Disabled
メモリ上にシャドウイングしません。

Video BIOS Cacheable (変更禁止)

ビデオ BIOS をメインメモリ上にシャドウイングするかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
メモリ上にシャドウイングします。
- Disabled
メモリ上にシャドウイングしません。

Memory at 15MB-16MB Reserved for (変更禁止)

15MB-16MB 間の 1MB のメモリをサーバに割り当てるか、拡張カードに割り当てるかを設定します。

- System (工場出荷設定値)
本サーバに割り当てます。
- Add-on Card
拡張カードに割り当てます。

Memory Mode (変更禁止)

拡張 RAM モジュールのエラー検出訂正機能の動作モードを設定します。

- Non-ECC
エラー検出 / 訂正をしません。
- ECC
読み出したデータのエラー検出 / 訂正をします。メモリ上のデータを訂正しません。
- ECC + Scrubbing (工場出荷設定値)
読み出したデータのエラー検出 / 訂正をして、メモリ上のデータを訂正します。
- EC-only
エラー検出のみ行います。

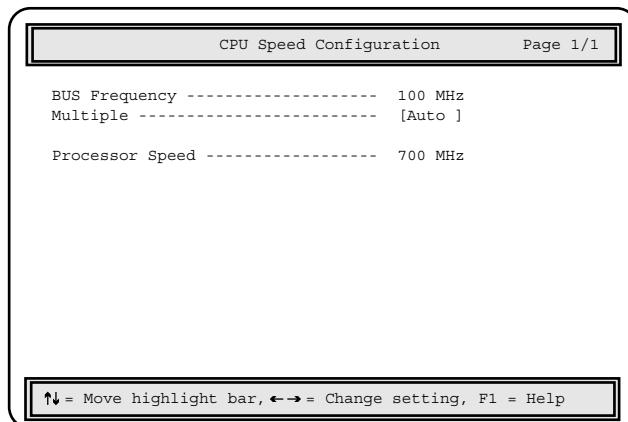
Single Processor MP Table (変更禁止)

本サーバに搭載する OS で、 MP (マルチプロセッサ) テーブルを有効とするかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
マルチプロセッサテーブルを有効とします。
- Disabled
マルチプロセッサテーブルを有効としません。

CPU Speed Configuration メニュー

CPU Speed Configuration メニューは、CPU の速度に関する設定をするメニューです。



Bus Frequency

外部周波数を表示します。

- 100MHz

Multiple

外部クロック周波数の倍率を設定します。

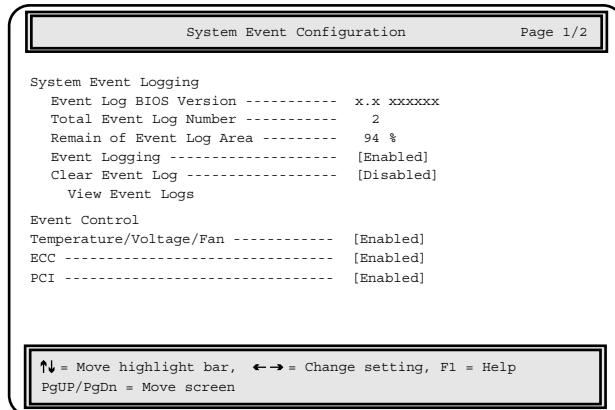
- Auto (工場出荷設定値)
- 2 / 2.5 / 3 / 3.5 / 4 / 4.5 / 5 / 5.5 / 6 / 6.5 / 7 / 7.5 / 8

Processor Speed

プロセッサ動作周波数を表示します。

System Event Configuration メニュー

System Event Configuration メニューは、イベントに関する設定を行うメニューです。



System Event Logging

イベントログに関する設定を行います。

Event Log BIOS Version

イベントログの BIOS の版数を表示します。

Total Event Log Number

格納済みのイベントログ数を表示します。

Remain of Event Log Area

残りのイベントログ格納領域の割合を % で表示します。

Event Logging (変更禁止)

イベントログ機能を有効とするか無効とするかを指定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
イベントログを行います。
- Disabled
イベントログを行いません。

Clear Event Log

イベントログの消去を行つかどうかを設定します。

- Enabled
イベントログの消去を行います。次回起動時にクリアされ、[Disabled] に変更されます。
- Disabled (工場出荷設定値)
イベントログの消去を行いません。

View Event Logs

イベントログを表示します。内容については、「8.3 イベントログ」(251 ページ) を参照してください。

Event Control

監視する項目を設定します。

Temperature/Voltage/Fan (変更禁止)

温度 / 電圧 / ファンの監視を行うかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
監視します。
- Disabled
監視しません。

ECC (変更禁止)

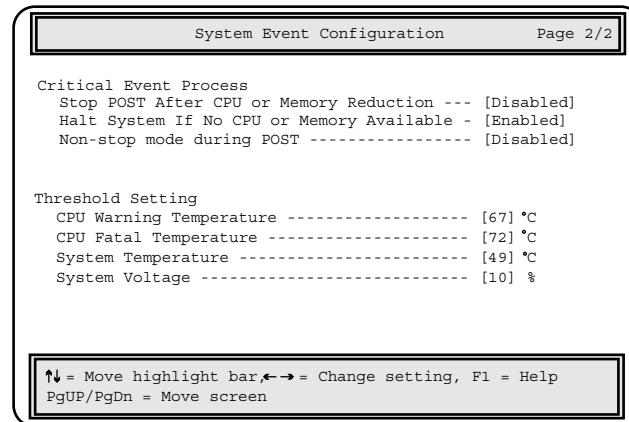
ECC メモリの監視を行うかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
監視します。
- Disabled
監視しません。

PCI (変更禁止)

PCI デバイスと PCI バスの監視を行うかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
監視します。
- Disabled
監視しません。



Critical Event Process

重大なイベントが発生したときの動作を設定します。

Stop POST After CPU or Memory Reduction (変更禁止)

CPU または RAM モジュールの故障を発見したら、縮退運転を行う前に POST を停止するかどうかを設定します。

- Enabled
POST を停止します。
- Disabled (工場出荷設定値)
POST を停止しないで動作します (緩退運転と呼びます)。

Halt System If No CPU or Memory Available (変更禁止)

CPU の温度異常や RAM モジュールの訂正可能なシングルビットエラーを検出し、正常な CPU または RAM モジュールが存在しない場合にシステムを停止するかどうかを設定します。

- Enabled (工場出荷設定値)
システムを停止します。
- Disabled
可能な限りシステムを動作させます。

Non-stop mode during POST (変更禁止)

POST 中にエラーを検出してもそのまま起動するかどうかを設定します。

- Enabled
エラーを検出しても起動します。
- Disabled (工場出荷設定値)
エラーを検出したら POST を停止します。

Threshold Setting

CPU およびシステムの警告温度 / 危険温度を設定します。なお、工場出荷設定値は発表月:2000年5月のサーバと発表月:2000年10月のサーバとでは異なります。

CPU Warning Temperature (変更禁止)

CPU の温度異常を通知する温度を設定します。

- 67 (工場出荷設定値、発表月 : 2000 年 5 月)
67 に設定します。
- 62 (工場出荷設定値、発表月 : 2000 年 10 月)
62 に設定します。
- 60 ~ 75
60 ~ 75 の間で設定します。

CPU Fatal Temperature (変更禁止)

CPU の危険状態を通知する温度を設定します。「CPU Warning Temperature」の設定値よりも高い値を設定する必要があります。

- 72 (工場出荷設定値、発表月：2000 年 5 月)
72 に設定します。
- 67 (工場出荷設定値、発表月：2000 年 10 月)
67 に設定します。
- 61 ~ 80
61 ~ 80 の間で設定します。

System Temperature (変更禁止)

ベースボード上の危険状態を通知する温度を設定します。

- 49 (工場出荷設定値)
49 に設定します。
- 40 ~ 60
40 ~ 60 の間で設定します。

System Voltage (変更禁止)

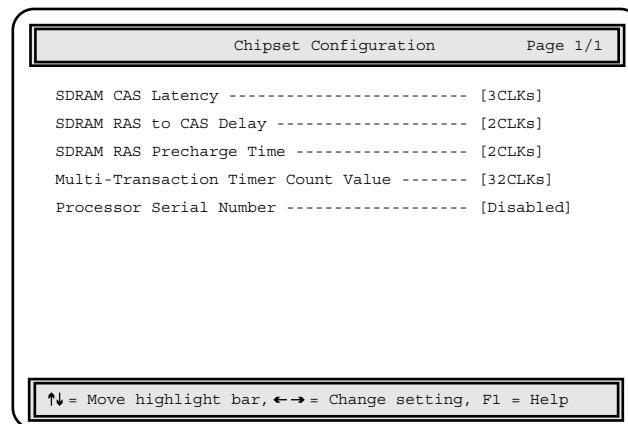
危険電圧の許容値を設定します。

- 10 (工場出荷設定値)
± 10 %に設定します。
- 10 ~ 20
± 10 ~ ± 20 %の間で設定します。

以下は、Main メニューまたは Advanced Configuration メニューで [F4] キーを押すと表示される詳細メニューです。

Chipset Configuration メニュー

ベースボード上のチップセットに関する詳細情報を設定します。



SDRAM CAS Latency (変更禁止)

- 2CLKs
- 3CLKs (工場出荷設定値)

SDRAM RAS to CAS Delay (変更禁止)

- 2CLKs (工場出荷設定値)
- 3CLKs

SDRAM RAS Precharge time (変更禁止)

- 2CLKs (工場出荷設定値)
- 3CLKs

Multi-Transaction Timer Count Value (変更禁止)

- 8CLKs
- 16CLKs
- 32CLKs (工場出荷設定値)
- Disabled

Processor Serial Number

プロセッサシリアル番号参照機能を有効にするかどうかを設定します。当機能を有効にすると、ネットワーク経由で外部から本サーバ搭載のプロセッサシリアル番号を参照できるようになります。プロセッサシリアル番号を外部に通知する必要がない場合は有効にしないでください。

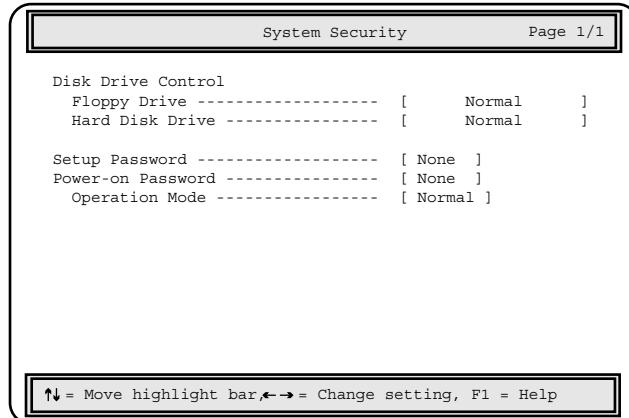
- Enabled
プロセッサシリアル番号参照機能を有効にします。
- Disabled (工場出荷設定値)
プロセッサシリアル番号参照機能を無効にします。

4.3.12 System Security メニュー

System Security メニューは、セキュリティに関する設定をします。

各メニューの詳細のマークは、次の意味です。

- ：項目名
- ：項目のサブメニュー
- : 設定内容



Disk Drive Control

フロッピィディスク、ハードディスクへの書き込みを禁止します。

Floppy Drive (変更禁止)

フロッピィディスクへの書き込みを禁止します。

- Normal (工場出荷設定値)
通常どおり書き込みや読み込みができます。
- Write Protect All Sectors
すべてのセクタへの書き込みを禁止します。
- Write Protect Boot Sector
ブートセクタへの書き込みを禁止します。

Hard Disk Drive (変更禁止)

IDE 規格のハードディスクへの書き込みを禁止します。

- Normal (工場出荷設定値)
通常どおり書き込みや読み込みができます。
- Write Protect All Sectors
すべてのセクタへの書き込みを禁止します。
- Write Protect Boot Sector
ブートセクタへの書き込みを禁止します。

Setup Password

セットアップパスワードは、特定の人だけが BIOS セットアップできるようにパスワードを設定します。セットアップパスワードを設定すると、BIOS セットアップを始めるときにパスワードの入力を求められます。

- None (工場出荷設定値)
パスワードを設定しません。
- Present
パスワードを設定します。選択すると、パスワード入力用の画面が表示されます。

Power-on Password

パワーオンパスワードは、特定の人だけが本サーバを使用できるようにパスワードを設定します。パワーオンパスワードを設定すると、本サーバの電源を入れたときにパスワードの入力を求められます。

- None (工場出荷設定値)
パスワードを設定しません。
- Present
パスワードを設定します。選択すると、パスワード入力用の画面が表示されます。

Operation Mode

パスワード設定時の操作方法を設定します。

- Normal (工場出荷設定値)
パスワード入力画面が表示されます。
- Network
パスワード入力画面が表示されません。

Setup Password および Power-On Password のパスワードの設定方法

パワーオンパスワードを設定する場合には、同時にセットアップパスワードを設定する必要があります。

セットアップパスワードを設定せずに、パワーオンパスワードのみを設定した場合には、BIOS セットアップを始めることはできません。

- 1 [] キーでセットアップパスワード、またはパワーオンパスワードにカーソルを合わせ、[] キーを押します。
パスワード入力用の画面が表示されます。
- 2 7 行までのパスワードを入力します。
入力できる文字種はアルファベットと数字です。入力した文字は表示されず、ブロックのみが表示されます。
- 3 パスワードを入力したら [Enter] キーを押します。
パスワードを確認するための画面が表示されます。
パスワードの設定を中止するときは、[Esc] キーを押します。

-
- 4 手順 2 で入力したパスワードを再び入力して [Enter] キーを押します。設定値が Present になります。再入力したパスワードが手順 2 で入力したものと一致しない場合は、再び手順 2 と同じ画面が表示されます。再びパスワードを入力してください。
 - 5 セットアップを終了し電源を切ってから、ジャンパセッティングを行います。
JP7 を 1-2 に変更します。

⚠ 警告

ジャンパセッティングを変更する場合は、サーバ本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに変更してください。感電の原因となります。

パスワードを BIOS セットアップで設定しても、ジャンパセッティングを変更するまでは、有効にはなりません。

☞ ヘルプ

パスワードを忘れてしまい、BIOS セットアップや起動ができなくなったら、JP7 を 2-3 に戻してください。パスワードチェックが解除されます。

▀ ポイント

誤ったパスワードを 3 回入力すると、システムが停止します。その場合は、本サーバの電源をいったん切ってから、再び電源を入れ、その後正しいパスワードを再入力してください。

Setup Password の削除 / 変更方法

セットアップパスワードの削除や変更は、System Security メニューで行います。パスワード入力用の画面で削除するには、[] [] キーで設定値を None に戻します。その後、BIOS セットアップを終了し、電源切断後、JP7 を 2-3 に戻すか、または JP7 が 2-3 に設定されていることを確認します。1-2 のままでは、BIOS セットアップを始めることはできません。

変更するには、[] [] キーで設定値を None に戻した後、再び [] [] キーでパスワード入力用の画面を表示させて、新しいパスワードを入力します。

Power-On Password の削除方法

パワーオンパスワードを削除する方法は、次のとおりです。

- 1 本サーバの電源を入れます。
- 2 パスワードを入力します。続けて [/] キーを押して [Enter] キーを押します。
パワーオンパスワードが削除されます。

Power-On Password の変更方法

パワーオンパスワードを変更する方法は、次のとおりです。

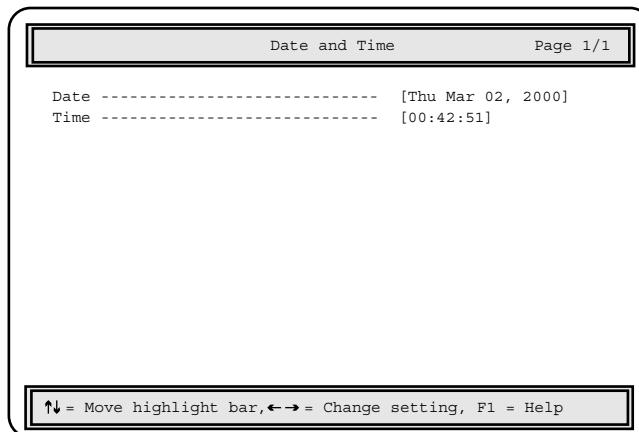
- 1 本サーバの電源を入れます。
- 2 パスワードを入力します。続けて [/] キーを押して新しいパスワードを入力します。
入力するパスワードは画面に表示されず、ブロックのみ表示されます。
- 3 [Enter] キーを押します。
パスワードを確認するためのウィンドウが表示されます。
- 4 手順 2 で入力した新しいパスワードを再び入力して [Enter] キーを押します。
パワーオンパスワードが変更されます。

4.3.13 Date and Time メニュー

Date and Time メニューは、日時を設定するメニューです。

各メニューの詳細のマークは、次の意味です。

- ：項目名
- ：項目のサブメニュー
- : 設定内容



Date

曜日 / 月 / 日 / 年 (西暦) を設定します。

Time

時 : 分 : 秒を設定します。時間は 24 時間形式で入力します。

4.3.14 Load Default Settings メニュー

Load Default Settings メニューは、通常は選択する必要はありません。初期値は、工場出荷設定値と一部異なります。初期値から工場出荷設定値にするには、「4.5 BIOS 設定情報の退避 / 復元」(102 ページ) を参照して、設定内容を元の状態に戻してください。また、「B.1 コンフィグレーションシート」(288 ページ) を参照して、設定内容を確認してください。

初期値に戻す手順は、次のとおりです。

設定方法

- 1 メインメニューから、[][] キーで Load Default Settings を選択して、[Enter] キーを押します。

次のメッセージが表示されます。

Do you want to load default Settings?

- 2 [][] キーで Yes か No にカーソルを合わせて [Enter] キーを押します。

初期値に戻す場合は、[Yes] を選択します。初期値に戻したくない場合は、[No] を選択します。

4.3.15 Abort Settings Change メニュー

Abort Settings Change メニューでは、BIOS セットアップユーティリティで設定変更した値を取り消す場合に選択します。
詳細は、次のとおりです。

設定方法

- 1 メインメニューから、[][]キーで Abort Settings Change を選択して、[Enter] キーを押します。
次のメッセージが表示されます。

Do you want to abort settings change?

- 2 [][]キーで [Yes] か [No] にカーソルを合わせて [Enter] キーを押します。
設定変更を取り消す場合には、[Yes] を選択します。取り消さない場合は、[No] を選択します。
Main メニューに戻ります。

4.4 SCSI コンフィグレーションユーティリティを使う

SCSI コンフィグレーションユーティリティは、以下の場合に行います。

- 本サーバ購入時に設定値を確認する場合
- SCSI コントローラや SCSI 装置の設定の変更や確認を行う場合
- SCSI 装置の物理フォーマット、または媒体検査を行う場合

4.4.1 SCSI コンフィグレーションユーティリティの起動と終了

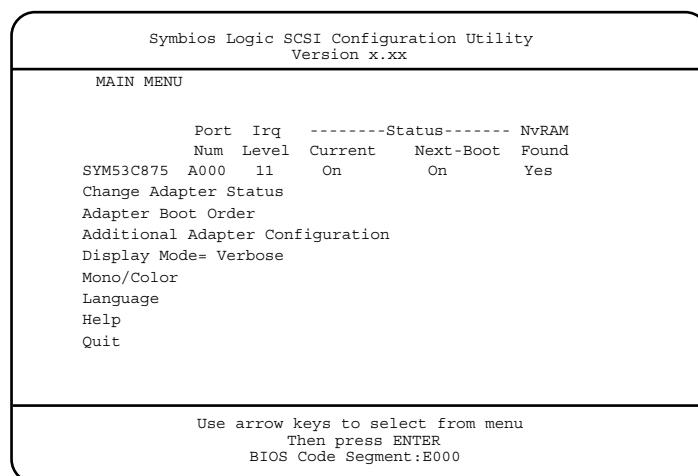
SCSI コンフィグレーションユーティリティの起動と終了の方法は以下のとおりです。

SCSI コンフィグレーションユーティリティの起動方法

SCSI コンフィグレーションユーティリティの起動方法は、以下のとあります。

1 サーバ起動時 (POST 実行中) に、「Press Ctrl-C to start Configuration Utility ...」と表示されている間に [Ctrl]+[C] キーを押します。

「Please wait, invoking Symbios Configuration Utility ...」とメッセージが変わり、以下の [Main] メニューが表示されます。



2 [Main] メニューから SCSI コントローラの各種設定を行います。

設定値の変更方法

SCSI コンフィグレーションユーティリティの設定値を変更する方法は以下のとおりです。

- 1 [] [] キーを押して、設定を変更したい項目を選択します。
[] [] キーを押すと、選択項目が上下に動きます。
- 2 [Enter] キーを押します。
サブメニューがある項目はサブメニューが表示されます。サブメニューがない項目は設定値が変更されます。
- 3 サブメニューでも、[Main] メニューと同様に操作します。
[] [] キーを押して変更したい項目を選択し、[Enter] キーを押します。さらにサブメニューがある場合は、サブメニューが表示され、サブメニューがない場合は、変更項目が表示されます。
変更項目では、[] [] キーを押して設定値を選択し、[Enter] キーを押します。
- 4 設定が終わったら、サブメニューの [Exit this menu] を選択し、[Enter] キーを押します。
変更した設定値を保存するかどうかのメッセージ画面が表示されます。保存して [Main] メニューに戻るときは [Save Changes] を、保存しないで [Main] メニューに戻るときは [Cancel Changes] を、再度サブメニューに戻るときは [Cancel Exit] を選択します。
SCSI コンフィグレーションユーティリティを終了するときは、次の「 SCSI コンフィグレーションユーティリティの終了方法」を参照してください。

各キーの役割

[] [] カーソルを移動します。

[Enter] 項目を選択します。サブメニューがある場合は、サブメニューを表示します。

SCSI コンフィグレーションユーティリティの終了方法

SCSI コンフィグレーションユーティリティの終了方法は以下のとおりです。

- 1 [Main] メニューで、[] [] キーを押して [Quit] を選択します。
- 2 再起動する旨の通知メッセージ「Rebooting system to change global settings...Press any key」 と表示されるので、何かのキーを押します。
SCSI コンフィグレーションユーティリティが終了します。



ポイント

SCSI カード、およびその SCSI バス上の SCSI デバイスの設定を行う場合

- SCSI カードのユーティリティについては、各製品の取扱説明書を参照してください。
- SCSI コンフィグレーションユーティリティでの設定は、各 SCSI バスに対して行ってください。

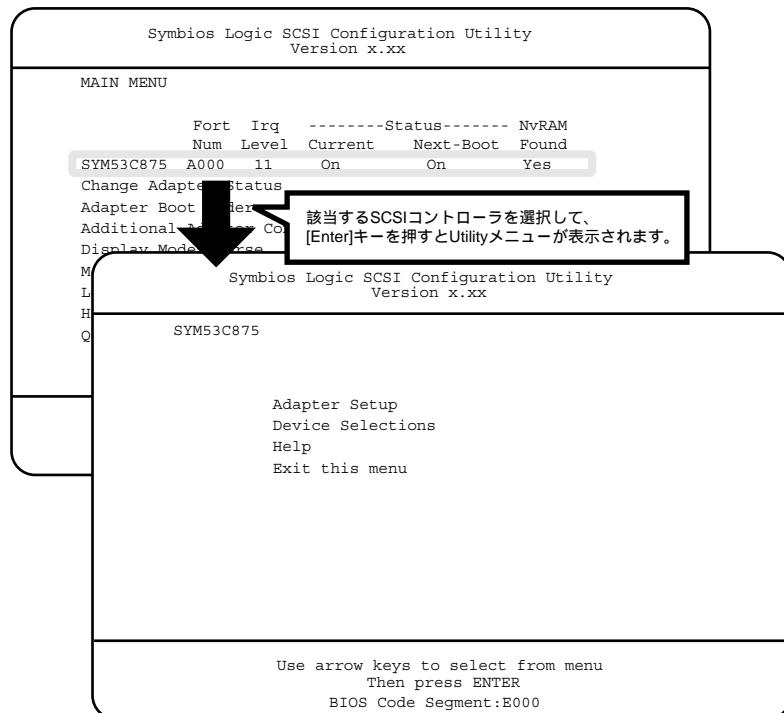
4.4.2 メニューと項目一覧

SCSI コンフィグレーションユーティリティには、初期画面のほかに以下のオプション画面があります。

Main メニューで、該当する SCSI コントローラを選択すると、Utility メニューが表示されます。

Main メニューは、SCSI コントローラ全体の設定を行うメニューです。

Utility メニューは、該当する SCSI コントローラに接続する SCSI 装置を制御する項目を設定するメニューです。



次に、それぞれのメニュー項目を一覧で説明します。各項目の詳細は、次の節以降を参照してください。

Main メニュー

項目	説明
Change Adapter Status (変更禁止)	SCSI コントローラを有効にするかどうかを設定します。
Adapter Boot Order	本サーバでは使えません。
Additional Adapter Configuration	本サーバでは使えません。
Display Mode	設定情報を簡略化して表示するかしないかを設定します。
Mono / Color	画面表示色を設定します。
Language	本サーバでは使えません。
Help	SCSI コンフィグレーションユーティリティのヘルプ画面を表示します。
Quit	SCSI コンフィグレーションユーティリティを終了します。

Utility メニュー

項目	説明
Adapter Setup	設定した SCSI コントローラの設定を変更します。
SCAM Support (変更禁止)	SCSI プラグアンドプレイである SCAM(SCSI Configuration AutoMagnically) をサポートするかどうかを設定します。
Parity (変更禁止)	SCSI パリティ機能を使うかどうかを設定します。
Host SCSI ID (変更禁止)	SCSI コントローラの SCSI ID を設定します。
Scan Order (変更禁止)	起動時、SCSI コントローラが認識する SCSI 装置の順序を設定します。
Removable Media Support	SCSI BIOS がリムーバブルディスクユニットをサポートするかどうかを設定します。
CHS Mapping (変更禁止)	CHS(シリンダ / ヘッド / セクタ) のマッピング方法を指定します。
Spinup Delay(Secs) (変更禁止)	複数のハードディスクユニットに対するモータオン制御を行う間隔を指定します。
Help	Adapter Setup メニューのヘルプ画面を表示します。
Restore Default Setup	Adapter Setup メニューの設定項目を初期値に戻します。
Exit this menu	Adapter Setup メニューのヘルプ画面を終了します。
Device Selections	選択した SCSI コントローラに搭載された SCSI 装置の設定を変更します。
Sync Rate(MBytes / sec) (変更禁止)	SCSI コントローラがサポートする最大同期転送速度を設定します。
Width(bits) (変更禁止)	SCSI コントローラが取り扱う SCSI 装置のバス幅を設定します。
Disconnect (変更禁止)	SCSI コントローラが、SCSI 装置に対し、SCSI バスから切断するかどうかを設定します。

項目	説明
ReadWrite I/O Timeout(secs) (変更禁止)	SCSI コントローラが、SCSI 装置の読み込みまたは書き込みする時間をどれくらい待つか設定します。
Scan for Device at Boot Time	SCSI コントローラが起動中に、SCSI 装置を認識するかどうかを設定します。
Scan for SCSI LUNS (変更禁止)	複数の LUN のある SCSI 装置をサポートするときに設定します。
Queue Tags (変更禁止)	キュータグをサポートする SCSI 装置を使用する場合に設定します。
Initial Boot Device (変更禁止)	初期ブートドライブに指定するかどうかを設定します。
Format	選択した SCSI 装置に対して、物理フォーマットを実行します。
Verify	選択した SCSI 装置に対して、媒体の検査を行います。
Help	Utility メニューのヘルプを表示します。
Restore Default Setup	Device Selections メニューの設定項目を初期値に戻します。
Exit this menu	Utility メニューを終了し、Main メニューに戻ります。

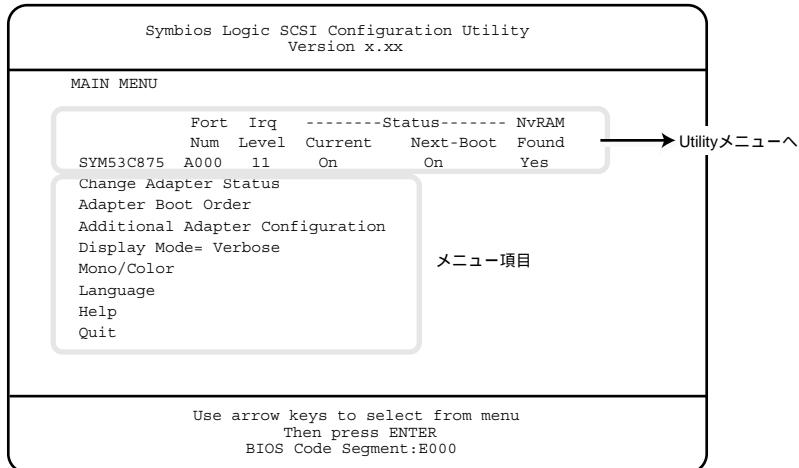
4.4.3 Main メニューの詳細

ここでは、Main メニューの設定項目の詳細について説明します。

Main メニューは、SCSI コントローラ全体の設定を行います。

各メニューの詳細のマークは、次の意味です。

- : 項目名
- : 項目のサブメニュー
- : 設定内容



Change Adapter Status

SCSI コントローラ全体の状態を変更できます。

Change Status on Next Boot (変更禁止)

該当する SCSI コントローラを有効にするかどうかを設定します。

本サーバでは、表示される SCSI コントローラは 1 つのみであり、以下の項目は変更しないでください。

- Next-Boot:On (工場出荷設定値)
有効にします。
- Next-Boot:Off
有効にしません。

Adapter Boot Order (選択不可)

本サーバでは、選択できません。

Additional Adapter Configuration (選択不可)

本サーバでは、選択できません。

Display Mode

本メニューで設定した情報を簡略化して表示するかどうかを設定します。
[Enter] キーを押すと、設定項目が切り替わります。

- **Verbose** (工場出荷設定値)
詳細な設定情報を表示します。
- **Terse**
設定情報を簡略化して表示します。

Mono/Color

画面表示をモノクロとカラーに切り替えます。
[Enter] キーを押すと、設定項目が切り替わります。

- **Mono** (工場出荷設定値)
モノクロで表示されます。
- **Color** カラーで表示されます。

Language (変更不可)

本サーバでは選択できません。

Help

Main メニューのヘルプ画面が表示されます（英文）
[Enter] キーを押すと、ヘルプ画面が表示されます。

Quit

SCSI コンフィグレーションユーティリティを終了します。
終了方法については、「4.4.1 SCSI コンフィグレーションユーティリティの起動と
終了」（87 ページ）を参照してください。

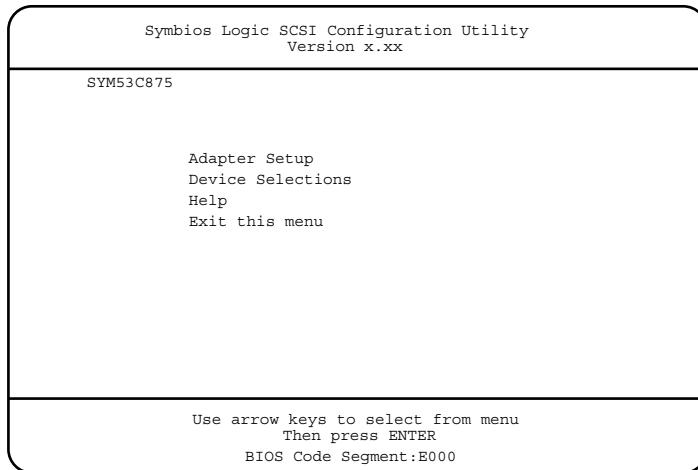
4.4.4 Utility メニューの詳細

ここでは、Utility メニューの設定項目の詳細について説明します。

Utility メニューは、選択した SCSI コントローラが制御する項目の設定を行います。

各メニューの詳細なマークは、次を意味します。マークを以下に示します。

- : 項目名
- : 項目のサブメニュー
- : 設定内容

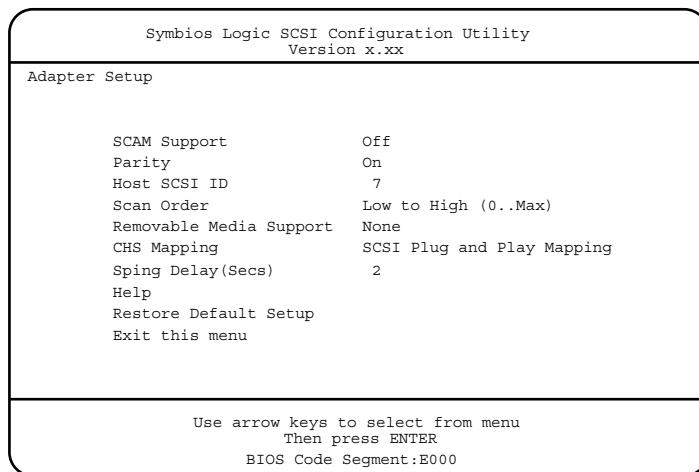


Adapter Setup

選択した SCSI コントローラの設定を変更します。

[Enter] キーを押すと、次の Adapter Setup サブメニューが表示されます。

Adapter Setup サブメニュー



SCAM Support (変更禁止)

SCSI ID などを自動的に設定する SCAM(SCSI Configuration AutoMatically) をサポートするかどうかを設定します。

- On
SCAM をサポートします。
- Off (工場出荷設定値)
SCAM をサポートしません。

Parity (変更禁止)

SCSI コントローラは、SCSI バスからデータを読み込むとき、常にデータのパリティチェックを行い、SCSI 装置からの正しいデータ転送を確認します。

本サーバでサポートする SCSI 装置はすべて SCSI パリティ機能を使うことができるので、工場出荷設定値は「Enabled」に設定しています。

- On (工場出荷設定値)
SCSI パリティ機能を有効にします。
- Off
SCSI パリティ機能を無効にします。

Host SCSI ID (変更禁止)

SCSI コントローラの SCSI ID を0 ~ 15 の間で設定します。SCSI コントローラの SCSI ID は、SCSI バス上で最高の優先順位を持つ「7」に設定しています。この設定は変更しないでください。

Scan Order (変更禁止)

起動時、SCSI コントローラが認識する SCSI 装置の順序を設定します。

- Low to High(0..Max) (工場出荷設定値)
SCSI ID 0 から順に、認識します。
- High to Low(Max..0)
設定している SCSI ID の最大値から順に、認識します。

Removable Media Support

リムーバブルディスクユニット (光磁気ディスクユニットなど) を SCSI BIOS のもとでハードディスクドライブユニットとしてサポートするかどうかを設定します。

- None (工場出荷設定値)
リムーバブルディスクユニットはサポートされません。
- Boot Drive Only
ブートデバイスに指定されたリムーバブルディスクユニットだけがサポートされます。
- With Media Installed
リムーバブルディスクユニットに媒体が入っているときだけサポートされます。

CHS Mapping (変更禁止)

CHS (シリンダ / ヘッド / セクタ) のマッピング方法を指定します。

- SCSI Plug and Play Mapping (工場出荷設定値)
- Alternate CHS Mapping

Spinup Delay (Secs) (変更禁止)

複数のハードディスクユニットに対するモータオン制御を行う間隔を 1 ~ 10 (秒) の間で設定します。

- 1 ~ 10
1 ~ 10(秒) の間で設定できます。工場出荷設定値は 2(秒) です。

Help

Adapter Setup サブメニューのヘルプを表示します (英文)

[Enter] キーを押すと、ヘルプ画面が表示されます。

ヘルプ画面から、[Esc] キーを押すと、Adapter Setup サブメニュー画面に戻ります。

Restore Default Setup

Adapter Setup サブメニューの各設定値を工場出荷設定値に戻します。

[Enter] キーを押すと、すべての設定値が工場出荷設定値に戻ります。

Exit this menu

Adapter Setup サブメニューを終了します。

Device Selections

選択した SCSI コントローラに接続された SCSI 装置の設定を変更します。

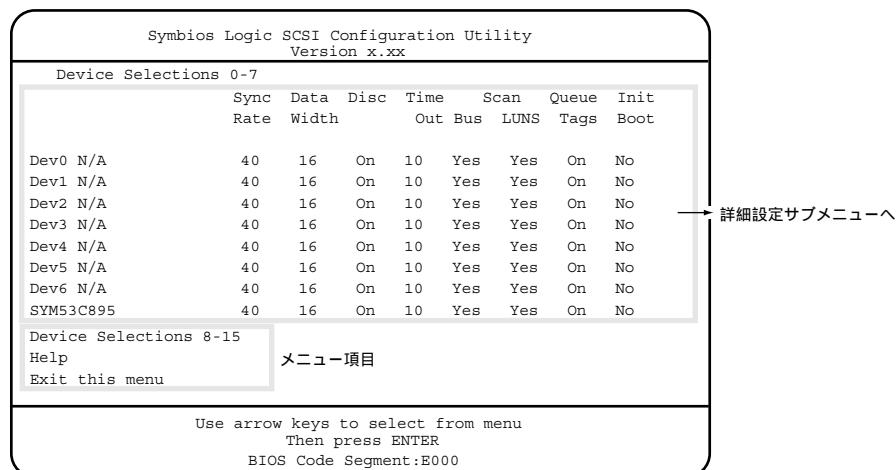
[Enter] キーを押すと、Device Selections サブメニューが表示されます。

Device Selections サブメニューでは、接続されている SCSI 装置が SCSI ID 順 (ID=0 から) に表示されます。「...N/A」と表示されている項目は、該当する SCSI ID に SCSI 装置が接続されていないことを示しています。

さらに、各 SCSI 装置を選択し、[Enter] キーを押すと、その SCSI 装置の詳細設定 サブメニューが表示されます。

Device Selections サブメニューおよび詳細設定 サブメニューの設定項目の詳細を説明します。

Device Selections サブメニュー



Device Selections 8-15/0-7

設定する SCSI 装置を変更します。

[Enter] キーを押すと、SCSI-ID 順に表示されている部分が「Dev8 N/A ~ Dev15 N/A」に変わります。

再度、[Enter] キーを押すと、「Dev0 N/A ~ SYM53C875(Dev7 N/A)」に戻ります。

Help

Device Selections サブメニューのヘルプを表示します (英文)

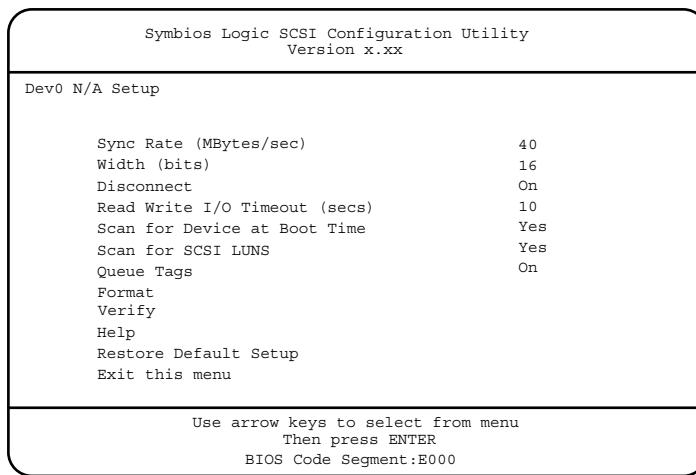
[Enter] キーを押すと、ヘルプ画面が表示されます。

ヘルプ画面から、[Esc] キーを押すと、Device Selections サブメニュー画面に戻ります。

Exit this menu

Device Selections サブメニューを終了します。

詳細設定サブメニュー



Sync Rate(MBytes/sec) (変更禁止)

SCSI コントローラがサポートする最大同期転送速度を設定します。SCSI コントローラは、UltraWideSCSI の最大値の 40MB/s までの速度をサポートします。

[Enter] キーを押すと、転送速度を選択できます。

- 40 (工場出荷設定値)
最大同期転送速度が 40MB/s に設定されます。
- 20
最大同期転送速度が 20MB/s に設定されます。
- 10
最大同期転送速度が 10MB/s に設定されます。
- Off
非同期転送に設定されます。

Width(bits) (変更禁止)

SCSI コントローラが Wide SCSI 装置を取り扱う場合に設定します。工場出荷設定値は、「16」に設定されています。

[Enter] キーを押すと、設定値を選択できます。

- 16 (工場出荷設定値)
16 ビット幅のデータ転送になります。
- 8
8 ビット幅のデータ転送になります。

Disconnect (変更禁止)

SCSI コントローラが、SCSI 装置に対して、SCSI バスからの切断(ディスコネクション)を許すかどうかを設定します。

[Enter] キーを押すと、設定値を選択できます。

- On (工場出荷設定値)

SCSI 装置は SCSI バスからの切断が許可されます。

- Off

SCSI 装置は SCSI バスからの切断が許可されません。

ReadWrite I/O Timeout(secs) (変更禁止)

SCSI コントローラが、SCSI 装置の読み込みまたは書き込みする時間をどれくらい待つかを設定します。

[Enter] キーを押すと、設定値を選択できます。

- 0 ~ 9999

0 ~ 9999 (秒) の間で設定できます。工場出荷設定値は 10(秒) です。

Scan for Device at Boot Time

SCSI コントローラが起動中に、SCSI 装置を認識するかどうかを設定します。

[Enter] キーを押すと、設定値を選択できます。

- Yes (工場出荷設定値)

SCSI 装置を認識します。

- No

SCSI 装置を認識しません。

Scan for SCSI LUNS (変更禁止)

複数の LUN (Logical Unit Number: 論理ユニット番号) を持つ SCSI 装置をサポートするかどうかを設定します。

[Enter] キーを押すと、設定値を選択できます。

- Yes (工場出荷設定値)

複数の LUN を持つ SCSI 装置をサポートします。

- No

複数の LUN を持つ SCSI 装置をサポートしません。

Queue Tags (変更禁止)

キュータグをサポートする SCSI 装置をサポートするかどうかを設定します。

[Enter] キーを押すと、設定値を選択できます。

- On (工場出荷設定値)

キュータグをサポートする SCSI 装置をサポートします。

- Off

キュータグをサポートする SCSI 装置をサポートしません。

Initial Boot Device (変更禁止)

初期ブートドライブに指定するかどうかを設定します。

- Yes

指定します。

- No (工場出荷設定値)

指定しません。

Format

選択した SCSI 装置に対して、物理フォーマットを行います。
この項目を選択すると、選択した SCSI 装置の全データが消去されます。事前に必ずデータのバックアップを取っておいてください。

Verify

選択した SCSI 装置に対して、媒体の検査を行います。

Help

詳細設定サブメニューのヘルプを表示します（英文）
[Enter] キーを押すと、ヘルプ画面が表示されます。
ヘルプ画面から、[Esc] キーを押すと、詳細設定サブメニュー画面に戻ります。

Restore Default Setup

Device Selections メニューの設定項目を初期値に戻します。

Exit this menu

詳細設定サブメニューを終了します。
Device Selections サブメニューに戻ります。

4.5 BIOS 設定情報の退避 / 復元

本サーバには、BIOS セットアップユーティリティによって設定された情報の退避、復元処理を行う BIOS Setup Rescue が添付されています。

BIOS Setup Rescue を利用すると、本サーバの内蔵バッテリの消耗などによって消去された設定情報を元の状態に復元できます。

BIOS Setup Rescue は、本サーバに添付の「BIOS Environment Support Tools」ディスクに含まれています。

△注意

次のいずれかの操作を行った場合、必ず BIOS 情報の退避を行ってください。

- 本サーバを初めて使用する場合
- BIOS セットアップユーティリティによって情報変更を行った場合
- 本サーバのハードウェア構成を変更した場合
具体的には、CPU、メモリ、ベースボードあるいは PCI カードの増減・変更があった場合です。

ここでは、BIOS Setup Rescue を使用するための準備、退避手順、復元手順および注意事項について説明します。

BIOS Setup Rescue を使用するための準備

BIOS Setup Rescue を使用するためには、以下のものを用意してください。

- 本サーバに添付の ServerWizard CD
- 本サーバに添付の「BIOS Environment Support Tools」ディスク

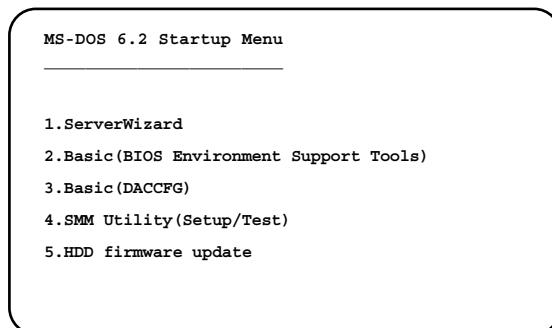
BIOS Setup Rescue による BIOS 情報の退避

BIOS 情報の退避手順を以下に示します。

1 電源を投入し、ServerWizard CD をセットします。

電源を投入して、POST 中 (RAM モジュールのチェックなどのメッセージが表示されている間) に、CD-ROM の取出しボタン (EJECT) を押して、ServerWizard CD をセットします。

次の画面が表示されます。



2 「2.Basic(BIOS Environment Support Tools)」を選択し、[Enter] キーを押します。

DOS プロンプトが表示されます。

3 「BIOS Environment Support Tools」ディスクをフロッピィディスクドライブにセットします。

セットしたら、以下のコマンドを入力し、BIOS 情報の退避を行います。

```
A:\>b: [Enter]
B:\>cd bsr [Enter]
B:\BSR>rdconfig [Enter]
```

4 既に退避処理を行ったことがある場合は、以下のメッセージが表示されます。

```
Do you want to overwrite it ? [y/n]
```

退避されている情報を更新してもよければ [Y] キーを押してください。ステップ 5 に進みます。更新たくない場合は、[N] キーを押してください。この場合、BIOS 情報の退避処理は実行されずにプログラムは終了します。

5 正常に BIOS 情報を退避できた場合、以下のメッセージが表示されます。

```
Normal end. Now, you can turn off the system.
```

以上で、退避処理は完了ですので、電源切断を行っても構いません。

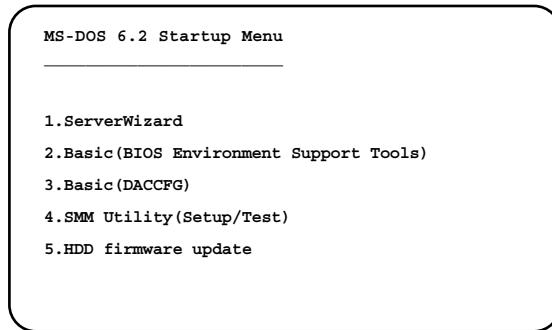
BIOS Setup Rescue による BIOS 情報の復元

本サーバの内蔵バッテリの消耗などによって、BIOS セットアップユーティリティで設定した情報が消去された場合、以下の手順で BIOS 情報の復元処理を行ってください。

△注意

プログラム実行中は電源を切斷しないでください。

- 1 電源を投入し、ServerWizard CD をセットします。
電源を投入して、POST 中 (RAM モジュールのチェックなどのメッセージが表示されている間) に、CD-ROM の取出しボタン (EJECT) を押して、ServerWizard CD をセットします。
次の画面が表示されます。



- 2 「2.Basic(BIOS Environment Support Tools)」を選択し、[Enter] キーを押します。
DOS プロンプトが表示されます。
- 3 「BIOS Environment Support Tools」ディスクをフロッピィディスクドライブにセットします。
セットしたら、以下のコマンドを入力し、BIOS 情報の復元を行います。

```
A:\>b: [Enter]  
B:\>cd bsr [Enter]  
B:\BSR>wtconf [Enter]
```

- 4 正常に BIOS 情報を復元できた場合、以下のメッセージが表示されます。

```
Normal end. Please restart the system in order to validate  
configuration.
```

- 5 BIOS の情報が有効になるのは次のシステム再起動後になりますので、速やかにサーバを再起動してください。
DOS プロンプト (B:\BSR>) が表示されましたら復元処理は完了ですので、電源切断を行っても構いません。

注意事項

- BIOS Setup Rescue は、本サーバ専用です。他システムでは絶対に使用しないでください。使用した場合、システムを破壊する可能性があります。
- BIOS Setup Rescue は、BIOS セットアップユーティリティによって設定される情報のみを退避／復元することができます。内蔵 SCSI 装置や増設カードの BIOS 情報については退避復元できません。
- BIOS Setup Rescue は、前述の方法で、サーバを起動した状態で実行してください。他のフロッピディスクやハードディスクから起動された状態で BIOS Setup Rescue を実行しないでください。実行した場合、システムを破壊する可能性があります。
- フロッピディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピディスクを取り出さないように注意してください。取り出した場合、フロッピディスクのデータ破壊だけでなくシステムの状態が不安定となる可能性があります。絶対に行わないでください。
- BIOS Setup Rescue を実行中に次に示すエラーメッセージが表示される可能性があります。表に示す対処に従ってください。なお、次に示すメッセージ以外が表示された場合は担当保守員に連絡してください。

メッセージ	対処
Write protect error writing drive B. Abort, Retry, Fail?	セットされたフロッピディスクがライトプロテクト状態です。ライトプロテクト状態を解除した後、[R] キーを押してください。
Not ready writing drive B. Abort, Retry, Fail?	フロッピディスクドライブにフロッピディスクがセットされていない状態です。正しいフロッピディスク（「BIOS Setup Rescue」ディスク）をセットした後、[R] キーを押してください。
ERROR:This program doesn't run on this system.	セットされたフロッピディスクがサポートしていないモデルです。正しいフロッピディスクをセットしてから再度実行してください。

メッセージ	対処
ERROR:Fail to create data file.	以下の原因が考えられます。フロッピィディスクの状態を再確認してください。 - フロッピィディスクがライトプロジェクト状態です。ライトプロジェクトを解除してから再度実行してください。
ERROR:Fail to write 1st CMOS data into data file. XX	
ERROR:Fail to write 2nd CMOS data into data file. XX	
ERROR:Fail to write ESCD data into the data file. XX	- フロッピィディスクがフロッピィディスクドライブにセットされていません。正しいフロッピィディスクをセットしてから再度実行してください。
ERROR:Fail to write EEPROM data into the data file. XX	- フロッピィディスクの内容が異常です。再度、「BIOS Setup Rescue」を作成してください。BIOS情報の復元中に発生した場合は、BIOSセットアップユーティリティにて情報を設定してください。その後、BIOS情報の退避処理も行ってください。
ERROR:Fail to open data file.	セットされたフロッピィディスク内にBIOS情報を復元するためのファイルが存在しません。BIOS情報を退避したフロッピィディスクをセットしてから再度実行してください。
ERROR:Fail to write 1st CMOS data into sysytem. XX	以下の原因が考えられます。フロッピィディスクの状態を再確認してください。
ERROR:Fail to write 2nd CMOS data into sysytem file. XX	- フロッピィディスクがフロッピィディスクドライブにセットされていません。正しいフロッピィディスクをセットしてから再度実行してください。
ERROR:Fail to write ESCD data into system file. XX	
ERROR:Fail to write EEPROM data into system. XX	- 他のモデルまたはサポートしていない版数のBIOS情報です。正しいフロッピィディスクをセットしてから再度実行してください。 - フロッピィディスクの内容が異常です。再度、「BIOS Setup Rescue」を作成してください。BIOS情報の復元中に発生した場合は、BIOSセットアップユーティリティにて情報を設定してください。その後、BIOS情報の退避処理も行ってください。
その他のメッセージ	担当保守員にご連絡ください。